

法政大学講義録

岡松, 参太郎 / 山脇, 貞夫 / 杉本, 貞治郎 / 横田, 五郎 /
松浦, 鎮次郎

(出版者 / Publisher)

法政大学

(巻 / Volume)

21

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

54

(発行年 / Year)

1904-12-07

(明治三十六年十一月一日第三號發行)
每月四日、七日、八日、十八日、二十八日發行

明治三十七年十二月七日發行

特別法ノ二十一

法政大學講義錄

第七拾百第

法政大學發行



特別法第二十一號目次

市制 町村制 (頁一七五—一七八) (完)

法學士 松浦鎮次 郎

不動産登記法 (頁八)

法學博士 岡松參太郎

非訟事件手續法 (頁四六—四五)

法學士 横田五郎

意匠法 (頁二四—二七)

法學士 杉本貞治 郎

公證人規則 (頁一九二—一九三) (完)

法學士 山脇貞夫

表紙及目次 六頁

雜報

○擔任講師ノ變更 ○府縣制第六條第九項ニ所謂「請負及ヒ」役員ノ意
義○當選ノ效力ニ關スル代理人ニ依ル異議申立○用水事業ノ共同處理ヲ
目的トセル町村組合ト灌漑反別ノ増加○戶籍法(第二百十五條)ノ法意

090
1903
5-21

所ナリ即チ市制ニ在ラハ市内ノ一區ニシテ特別ニ財産ヲ所有シ云云トイヒ町
村制ニ在テハ「町村内ノ區第六十四條又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村第四條」
ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ「區」ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ云云トイフモ
ノ是ナリ此種ノ區ハ財産權ノ主體タル點ニ於テ「箇」ノ人格者タリ然レトモ單
ニ私法上ノ人格者タルニ止マリ其財産ニ關シテ行政權ヲ行使シ得ル者即チ公
法上ノ人格者タル性質ヲ有セス勿論區ノ財産ニ關シテモ其財産ノ維持ノ爲ニ
租稅ヲ區民ニ賦課スルカ如キ其財産ニ對スル公法上ノ使用ヲ許可スルカ如キ
行政權ノ活動ヲ見ルコトナキニ非スト雖モ此等ノコトハ市參事會町村長カ市
町村ノ事務トシテ市町村行政ニ關スル規則ニ依リ之ヲ行フモノニシテ區自身
カ之ヲ行フニ非ス如斯ク區ハ公法上ノ人格者ニ非サルハ言フ迄モナク私法上
ノ關係ニ於テ種種ノ取引ヲナスコトヌラ自ラ之ヲ爲ス能ハス市町村事務ノ一
トシテ市參事會町村長カ之ヲ行フナリ一言ニシタイハ區ハ唯財産ヲ所有セ
リトイフノミニシテ其財産ニ關スル事務ハ總テ市町村ニ於テ自己ノ事務トシ
テ之ヲ行フモノニ外ナラス此種ノ區ニ關シテハ學者或ハ之ヲ以テ單ニ私法上

ノ人格ヲ有スルニ止マラス公法上ノ人格ヲモ有シ自己ノ財産ニ付テハ行政權ヲ行使スルモノトナシ從テ區ノ財産ノ維持ノ爲ニ賦課スル租稅ハ市町村稅ニ非スシテ區稅ナリ同一ノ目的ノ爲ニスル公債ハ市町村ノ公債ニ非スシテ區ノ公債ナリ市參事會町村長カ區ノ事務ヲ行フハ市町村事務トシテ之ヲ行フニ非スシテ區ノ機關タル資格ニ於テ區自身ノ事務ヲ行フモノナリト論スル者アリ其說ハ一概ニ誤謬ナリト斷言スル能ハスト雖モ市制百十三條町村制第一百十四條ノ解釋トシテハ少シク其論據ニ乏シキノ感ナキニ非ス寧ロ前述ノ如ク區ヲ以テ單ニ私法上ノ人格ヲ有スルモノトナスヲ正當トス當局者ノ實際ノ取扱モ亦此說ニ傾ケルモノノ如シ此種ノ區ノ爲ニ府縣參事會又ハ郡參事會ニ於テ關係市町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シテ區會又ハ區總會ヲ設ケ得ルコト並ニ區會區總會及區會議員ニ關スルコト其他區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別スヘキコト等ハ總テ營造物ノ費用負擔區域タル區ニ於ケルト同シ尙ホ法カ此種ノ區ヲ認ムルノ趣旨ハ市制町村制施行ノ當時現ニ存在シ財産權ノ主體タリシ小町村(大字及獨立ノ市町村ニシテ合併等ノ爲メ他市町村ノ一部トナルモノ

ヲ其儘財産所有者トシテ存續セシメントスルニ在ルカ故ニ區ハ唯從來ノ財産ヲ維持管理シ得ルニ止マリ特別ノ規定アル場合ノ外ハ新ニ財産ヲ取得スルカ如キハ之ヲナシ得ザルモノトス

(ロ) 東京市、大阪市、京都市ノ區

東京市、大阪市及京都市ノ區ノコトハ市制第三條二項ノ規定スル所ニシテ即チ(東京市、京都市、大阪市ニ於テハ從來ノ區特別市制廢止前ノ區ヲ謂フ)ヲ存ス其區ハ財産及營造物ニ關スル事務其他法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理スルモノトストイフモノ是ナリ故ニ此區ハ單ニ私權ノ主體タル財産區タルニ止マラス營造物設置ノ如キ行政作用ヲナシ得ル公法上ノ人格者タリ且其財産權ノ主體タル關係ニ於テモ一般ノ市町村内財産區ノ如ク唯從來ノ財産ヲ維持管理シ得ルノミニ止マラス新ニ財産ヲ取得スルカ如キコトモ自由ニ之ヲナシ得ルモノトス此區ヲ廢置分合シ又ハ其境界ヲ變更セントスルトキハ町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ於ケルト同一ノ手續ニ依ルヘキモノトス其他區ノ名稱及區役所ノ位置ヲ定メ若ハ變更セントスルトキハ區會ニ於テ之ヲ議決シ區會ナ

ラス區長カ區ニ關スル事務ヲ處理スルニ付テモ市ノ行政ニ關スル規定ヲ適用ストイハスシテ之ヲ準用ストイヒ區ノ監督ニ付テモ市ノ監督ニ關スル規定ヲ適用ストイハスシテ之ヲ準用ストイフヲ以テ見ルモ市ノ租稅賦課公債募集等ノ規定ハ之ヲ區ニ適用セシメタルノ趣旨ナリトイフヲ得ヘキカ實際ノ取扱ニ於テモ區ハ課稅募債ノ權能ヲ有セストシ區ノ事業ノ爲ニスルモノト雖モ皆市稅市公債トシテ之ヲ處理シ然モ實際ハ區ノ人民ノミノ負擔ヲ以テ之ヲナセルモノノ如シ然レトモ全ク獨立ノ人格者タル區ノ行政事務ノ爲ニスル租稅又ハ公債ヲ當然市稅又ハ市公債トシテ處理シ得ヘシトノ論據ハ何處ニ之ヲ求ムヘキカ或ハ區會議員ヲ以テ市ノ名譽職トスルノ規定竝ニ區長ヲシテ市參事會ノ監督ヲ受ケテ區ノ事務ヲ處理セシムルノ規定ヨリ見ルモ法ノ精神ハ區ノ事務ヲ處理スルコトヲ市ノ事務ノ一部ト看做セルモノナリトイヒ得ヘシト論スル者アリ假ニ此論ニ依ルトスルモ猶ホ市カ獨立ノ人格者タル區ノ爲ニ市内ノ一部區ノ區域ノミニ對シ市稅ヲ賦課シ得ヘシトスルノ論據ハ何レニ在リヤ市制ニ依リ市ニ於テ一部賦課ヲナシ得ルハ第九十九條ノ場合即チ市内ノ一區ニ於

テ專ラ使用スル市ノ營造物ノ修築保存ノ爲ニスル場合ノミナリ而シテ東京市、大阪市京都市ノ區カ第九十九條ノ負擔區ニ非サルハ論ヲ持タズ此點ニ關スル法ノ規定ハ到底不明タルヲ免カレサルナリ

區ノ種別ニ關シテハ以上述フル所ノ如シ而シテ各種ノ區ハ前已ニ述ヘタル如ク必スシモ其區域ヲ異ニシテ存在セルニ非ス就中處務便宜ノ爲ニ設タル行政區ト財產營造物ニ關スル區トハ其區域ヲ同シクスルヲ常トスルカ故ニ法ハ此事實ヲ認メ東京市大阪市京都市ヲ除ク外人口二十萬以上ノ市ノ區ニシテ有給ノ區長ヲ置クモノニ關シ特別ノ規定ヲ設ク之ニ依レハ區ヲ廢置分合シ又ハ其境界ヲ變更セントスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要シ猶ホ其處分ニ關シ其區ノ財產處分ヲ要スルトキハ市參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス又區ノ名稱及區役所ノ位置ヲ定メ若ハ變更セントスルトキハ市參事會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘキモノトス區長ハ市行政ノ補助機關タル外ニ市參事會ノ監督ヲ受ケテ區ノ事務ヲ掌リ而シテ區ノ事務ヲ處理スルニ付テハ市ノ事務ニ關スル規定ヲ準用ス區收入稅ハ區内ニ關スル市收入稅ノ事

務ヲ掌ル外ニ區ノ出納其他會計事務ヲ掌リ而シテ其職務權限及處務規程ニ關シテハ市收入役ニ關スル規定ヲ準用ス區長及區收入役カ市ノ事務ニシテ區内ニ管スルモノ及區ノ事務ヲ執行スル爲必要ナル費用ハ法律命令中別段ノ規定アルモノノ外市ノ負擔トス其他區長ト區會トノ關係ニ付テハ市ノ參事會ト市會トノ關係ニ關スル規定ヲ準用シ區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス要スルニ此特別規定ニ依ル區ハ財產營造切ニ關シテハ獨立ノ人格ヲ認メラルモノノ如シ但法カ之ニ對シテ課稅募債等ノ權能ヲ認メザルハ東京市大阪京都市ノ區ニ於ケルト同一ナルカ如シ市制第三條第二項第四條第二項第六十條第七十二條第百十三條第百十四條町制第六十四條第百十四條第百十五條明治三十一年九月勅令第二百十號東京京都市大阪市ノ區ニ關スル件明治三十三年三月勅令第九十八號人口二十萬以上ノ市東京京都市大阪市ヲ除クノ區ニ關スル件地方學事通則第二條小學校令第十一條及第十四條實業學校令第五條參看

第九節 市町村ニ對スル監督

市町村ハ國家ノ事務ヲ自己ノ事務トシテ施行スルコトヲ目的トスルモノナリ故ニ市町村カ正當ニ其事務ヲ行フヤ否ハ國家自身ノ利益ニ關係スルコト少ナカラス從テ國家ハ常ニ市町村ニ對シテ監督ヲ行フノ必要アリ監督ノ機關トシテハ市ニ在テハ第一次ニ府縣知事之ニ當リ第二次ニ內務大臣之ニ當リ町村ニ在テハ第一次ニ郡長之ニ當リ第二次ニ府縣知事之ニ當リ第三次ニ內務大臣之ニ當ルモノトス但法カ特ニ規定セル場合ニ於テ大藏大臣府縣參事會郡參事會カ監督機關トシテ行動スルコトアルハ別段ナリトス其他市町村ノ監督ニ關シ市制町村制ニ規定シタル內務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ付テハ內務文部兩大臣ニ屬スルモノトス國家ノ監督作用ヲ大別シテ市町村團體ニ對スルモノ及市町村ノ機關ニ對スルモノトス

一 市町村團體ニ對スル監督
市町村團體ニ對スル監督ハ一方ニ於テ市町村カ積極的ニ其事務ヲ行フコトニ

由リテ法規ニ違ヒ若ハ公益ヲ害スルコトヲ制止スルト同時ニ一方ニ於テ市町村カ消極的ニ其事務ヲ行ハザルコトニ由リテ違法若ハ不當ニ陷ルヲ制止スルニ在リ前者ヲ積極的監督トイヒ後者ヲ消極的監督トイフ

積極的監督ノ一ハ市町村ノ行政中或種類ノモノニ付テハ監督廳ノ認可ヲ得テ後始テ其效力ヲ生セシムルニ在リ即チ市町村會ノ議決ニシテ(一)市町村條例ノ新設改正ニ關スルモノ及(二)學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却、讓與買入、書入、交換若ハ大ナル變更ヲナスコトニ關スルモノハ内務大臣ノ認可ヲ受タルコトヲ要シ又(一)償還期限三年以内ノモノヲ除ク外新ニ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及常例ニ違ヒタル方法ニ依リテ負債ヲナサントスルコトニ關スルモノ市制第六條第二項町村制第六條第二項ノ例ニ違フモノヲ謂フ(二)市町村特別稅並ニ使用料手數料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スルコトニ關スルモノ(三)地租五分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ノ賦課ニ關スルモノ(四)間接國稅附加稅ノ賦課ニ關スルモノ及(五)法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムルコトニ關スルモノハ内務大臣及大

藏大臣ノ認可ヲ受タルコトヲ要ス又市會ノ議決ニシテ(一)市ノ營造物ニ關スル規則ノ新設改正ニ關スルモノ(二)基本財産ノ處分ニ關スルモノ(三)私有不動産ノ賣却、讓與並ニ質入、書入ニ關スルモノ(四)各箇人特ニ使用スル市有土地使用法ノ賣買ヲナスコトニ關スルモノ(五)各種ノ保證ヲ與フルコトニ關スルモノ(六)法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非シテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スルコトニ關スルモノ(七)均一ノ稅率ニ據ラザル國稅府縣稅附加稅ノ賦課ニ關スルモノ(八)營造物ヲ專用スル數箇人又ハ市内ノ一區ニ費用ヲ賦課スルコト及(九)直接市稅ヲ率率トセザル夫役及現品ノ賦課ニ關スルモノハ府縣參事會ノ認可ヲ受タルヲ要シ町村會ノ議決ニシテ右ニ準スルモノハ郡參事會ノ認可ヲ受タルヲ要ス茲ニ注意スヘキハ右ニ所謂市町村會ノ議決トハ市町村會其モノノ議決ノミナラス他ノ機關カ市町村會ニ代リ市町村會ノ職務ヲ行ヒタル場合ノ議決ヲモ包含スルモノナルコト是ナリ故ニ市町村内ノ區ニ區會ヲ設タルカ爲メ市町村條例ヲ發行スル場合ノ如キハ法ノ規定ニ依リ市ニ在テハ府縣參事會カ市會ニ代リ町村ニ在テハ郡參事會カ町村會ニ代リ議決スルモノニシテ

文字ニ拘泥スレハ之ヲ市町村會ノ議決トイフ能ハサルカ如キモ法ノ精神ハ之ヲ市町村會ノ議決ト看做シ其條例ハ内務大臣ノ認可ヲ要スルナリ尙以上ノ外市町村吏員ノ選任又ハ選舉ニ付キ裁可又ハ監督廳ノ認可ヲ要シ町村組合ノ設置解除ノ場合ニ監督廳ノ認可ヲ要スルコト等ハ前已ニ述ヘタルカ如シ法ハ特ニ規定ヲ設ケ市町村ノ行政ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ要スヘキ事項中其輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ認可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルヲ許シ居レリ而シテ此規定ニ基キタル勅令ハ主務大臣ノ認可ヲ要スル事項中市長代理順序町村助役定員増加町村長町村助役有給公告式及勞務委員ニ關スル條例ノ新設改正及地租二分ノ一以下ノ附加税ノ附加ハ府縣知事ニ於テ之ヲ認可スヘキコトヲ定ム

積極的監督ノ二ハ市町村ノ合議體タル機關ノ議決カ違法若ハ不當ナリト認めラルル場合ニ他ノ機關ヲシテ其議決ノ執行ヲ停止シ再議ニ付シ又ハ付セスシテ監督廳ノ裁決ヲ求メシムルニ在リ是レ前已ニ述ヘタルヲ以テ茲ニ詳述セリ積極的監督ノ三ハ人民ニ與フルニ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルノ權利ヲ以テ

シ之ニ依リテ町村ノ行爲ヲ再審スルニ在リ訴訟又ハ行政訴訟ヲ許セル事項ニ付テハ前已ニ處處ニ之ヲ述ヘタリ要スルニ行政訴訟ハ處分ヲ違法ナリトスル場合即チ法ノ解釋問題ニ付キ爭ヲ生スル場合ニノミ之ヲ許スノ主義ニ依リ且訴訟ヲ以テ其段階トシテ訴訟ヲ經盡シタル後初テ行政訴訟ヲ許スノ主義ヲ取レリ故ニ人民ニ於テ處分ヲ違法トシテ行政訴訟ヲ提起セントスルニハ先ツ訴訟ノ途ニ由リテ進マサルヘカラス而シテ行政訴訟ハ法カ一一列記シタル場合ノ外概括的ニ之ヲ許サス訴訟ハ行政訴訟ト異ナリ必スシモ處分ヲ違法トスル場合ノミナラス處分ヲ不當トスル場合ニモ之ヲ提起シ得ルモノニシテ法カ之ヲ許ス場合ハ行政訴訟ニ於ケルヨリモ廣シ即チ法カ一一列記シタル場合ノ外凡市ノ行政ニ關スル府縣知事若ハ府縣參事會ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴訟スルヲ得凡町村ノ行政ニ關スル郡長若ハ郡參事會ノ處分ニ不服アル者ハ府縣知事若ハ府縣參事會ニ訴訟シ其府縣知事若ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴訟スルコトヲ得茲ニ注意スヘキハ市ノ行政ニ關スル府縣知事若ハ府縣參事會ノ處分トイヒ町村ノ行政ニ關スル郡長若ハ郡參事會ノ

處分トイフコト是ナリ市若ハ町村ノ行政ニ關スルモノトハ市町村ノ行ヒタル行政ニ關シテ府縣知事其他ノ者カ或ル處分ヲナシタル場合ヲ謂フモノニシテ府縣知事其他ノ者カ市町村ノ行ヒタル行政ニ關係ナク國ノ處分トシテ初ヨリ自己單獨ニナシタル處分ヲ包含セス故ニ如斯キ處分ニ對シテハ訴訟ヲ提起スルノ途ナシトイハナルヘカラス尙ホ訴訟ト行政訴訟トノ關係ニ付キ注意ヲ要スルコトアリ法ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニハ內務大臣ニ訴願スルヲ得サルコトヲ規定セリ故ニ例ヘハ市町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者カ之ニ不服ナル場合ニ於テハ其不服ノ理由カ賦課處分ヲ違法ナリトスルニ在ルト單ニ之ヲ不當ナリトスルニ在ルトヲ問ハス順次府縣參事會マテ訴願スルコトヲ得レトモ府縣參事會ノ裁決ニ猶不服ナル場合ニハ法カ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ許セルカ爲ニ最早內務大臣ニ訴願スルコトヲ得サルナリ如斯キ場合ニ於テハ單ニ府縣參事會ノ裁決ヲ不當トスル者ニ對シテハ內務大臣ニ訴願スルヲ得シメ其裁決ヲ違法トスル者ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得シムルコトトセハ大ニ公平ヲ得ルカ如ク思ハレトモ現行法ニ於テ此主義ヲ取

ラサルハ畢竟單ニ不當處分ヲ理由トスル場合ニ一內務大臣マテ訴願セシムルノ必要ナシトノ理由ニ依ルモノナルヘシ尙ホ訴訟ニ付テハ一ノ注意ヲ要スルコトアリ市制町村制ニ於テ訴訟ト稱スルモノノ中ニハ異議ナルモノヲ包含セルコト是ナリ異議ト訴訟トノ區別ニ付テハ人動モスレハ之ニ注意セスト雖モ然モ其性質ニ於テ二者互ニ相異ナル所アリ行政廳ノ處分ヲ取消若ハ變更ヲ求ムルカ爲ニ權利トシテ私人ニ與ヘラレタル救濟手段ナルノ點ニ於テハ異議ハ訴訟ト異ナル所ナシ然レトモ訴訟ハ一面私人ニ與ヘラレタル救濟手段ナルト同時ニ一面ニハ訴訟ノ原由トナレル處分ヲテシタル行政廳ニ對スル國家ノ監督手段ヲ意味スルモノナルニ反シ異議ハ唯處分ニ不服ナル者カ一意其處分ヲナシタル者ノ反省ヲ求ムルカ爲ニ其者ニ對シテ之ヲ申立ツルモノニシテ毫モ國家監督權ノ作用ヲ求ムルノ意味ヲ有セス自治體ノ行政廳ノ處分ニ關シテハ可成自治ノ範圍ヲ廣クシ國家ノ干渉ヲ少クセシカ爲ニ處分ニ不服ナル者ヲシテ訴願ヲ提起スルニ先チ異議ヲ申立ヲナシテ自治體ノ反省ヲ求メシムルコト多シ市制町村制ニ於テ市參事會町村長若ハ市町村會ニ對シテ訴訟スルコト

ヲ許セルモノ即チ議員選舉ニ關スル訴訟市町村稅ノ賦課市町村營造物ノ使用權ニ關スル訴訟ノ如キハ其名ハ訴訟ナルモ其實は所謂異議ニ屬ス現ニ市制町村制ニ後レテ發布セラレタル北海道區制・沖繩縣區制・北海道一級町村制及二級町村制ノ如キハ明ニ訴訟ト異議トヲ區別シ議員選舉其他ノ事項ニ關スル救濟手段ハ之ヲ異議トシテ規定セリ市制町村制ニ於テモ法ノ精神ハ訴訟ト異議トヲ區別セルコトヲ疑ハズ即チ市參事會町村長若ハ市町村會カ所謂訴訟ヲ裁決スルハ監督廳トシテ市町村ノ行爲ヲ再審セントスルニ非スシテ市町村ノ機關トシテ市町村ノ行爲カ果シテ反省スヘキモノナルヤ否ヲ決定スルニ在リ換言スレハ異議ニ對スル決定トシテ市町村自身ノ意思ヲ表示スルニ在ルナリ如斯ク市參事會町村長若ハ市町村會ニ於テナス所ノ訴訟ノ裁決ハ眞ノ訴訟ノ裁決ニ非スシテ異議ノ決定ニ外ナラザルヲ以テ左ノ如キ結果ノ差異ヲ生ス即チ市町村稅ノ賦課ニ不服ナル者カ市參事會町村長ニ訴訟シ市參事會町村長之ヲ裁決シタル場合ニ於テ若シ其裁決カ眞ノ訴訟ノ裁決ナリシナラハ市町村自身之ニ不服ナル場合ニハ其裁決ニ對シ更ニ訴訟訴訟ヲナシ得ヘキ筈ナレトモ市

參事會町村長ノ裁決ハ單ニ異議ノ決定トシテ市町村自身ノ意思ヲ表示シタルモノニ外ナラザルカ故ニ市町村カ之ニ對シテ不服アリトイフコトハ道理上有り得ヘカラザルコトナリ從テ市町村自身ハ之ニ對シテ更ニ訴訟訴訟ヲ提起スルヲ得ザルモノトイハサルヘカラザルナリ次ニ訴訟及行政訴訟提起ノ期限ハ訴訟ニ在リテハ市制町村制中ニ別段ノ期限ヲ定ムルモノノ外ハ處分書若ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ提出スヘク行政訴訟ニ在リテハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スルヲ要ス訴訟及行政訴訟ノ提起アリタルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルヲ本則トス但市制町村制中別ニ規定アルカ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲ニ市町村ノ公益ニ害アリトナス場合ハ此限ニ在ラザルモノトス

次ニ消極的監督ノ一ハ市町村ニ於テ其義務ニ屬スル支出ヲナサザル場合ニ之ヲ強制スルニ在リ所謂強制豫算ナルモノ是ナリ即チ市町村ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス

又ハ臨時之ヲ承認セシ又ハ實行セザルトキハ市ニ在テハ府縣知事町村ニ在テハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシムヘキモノトス此方法ハ市町村ニ於テ負擔スヘキ定マリタル支出ヲナサザル場合ニ之ヲ強制スルニ在ルカ故ニ其強制スヘキ支出ハ單ニ市町村ノ公共事務ヲ施行スルニ必要ノモノナルノミヲ以テ足レリトセズ市町村ノ必要事務トシテ法律上必スナサザルヘカラサル性質ノモノナルヲ要ス且其金額ハ一定セルモノ若ハ一定スヘキモノナルヲ必要トス尙ホ此規定ハ町村組合ニモ適用ス

消極的監督ノ二ハ市町村ノ機關カ其職務ヲ盡サザルトキ又ハ機關ニ故障アル場合ニ他ノ者ヲシテ代テ其職務ヲ取ラシムルニ在リ即チ市町村會又ハ市參事會ニ於テ議決スヘキ事件ヲ議決セザルトキ議員又ハ參事會員ノ一身上ニ故障アル爲メ會議ヲ開クノ定數ニ滿タザルトキ及市町村會解散セラレ改選市町村會未ダ集會セザルトキハ市ニ在テハ府縣參事會町村ニ在テハ郡參事會代テ之ヲ議決ス又裁可若ハ認可ヲ要スヘキ市町村吏員ノ選任又ハ選舉ニシテ裁可認可ヲ得ス再ヒ選任又ハ選舉ヲナシテ猶其裁可認可ヲ得ザル場合ニハ追テ選任

又ハ選舉ヲ行ヒ裁可若ハ認可ヲ得ルニ至ルハ府縣知事町村ニ在テハ認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ市町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ其缺ケタル吏員ノ職務ヲ管掌セシムルモノトス實際ニハ吏員カ再認可ヲ得ザル場合ノミナラス行政機關カ同時ニ缺員トナリタルカ如キ場合ニモ監督官廳ハ右ノ規定ニ依リ職務管掌ヲナサシムルコトアレトモ是レ法ノ明ニ許セル所ニハ非ザルナリ

市町村團體ニ對スル國家監督權ノ作用ニシテ法カ明ニ規定セルモノハ大體右ニ述ヘタルカ如シ此外市町村ノ行爲ヲシテ少クトモ違法ナラシメサルカ爲メ必要ナル場合ニハ監督權ノ當然ノ作用トシテ法ニ何等ノ規定ナクモ監督官廳ニ於テ市町村ニ對シ命令シ得ルコトハ論ヲ待タス尙ホ監督官廳ニ於テ市町村ニ對シ監督權ヲ行ハントスル必要上市町村ヨリ報告ヲ徵シ又ハ實地檢閲ヲナスノ權ヲ有ス如斯ク國家ハ市町村ニ對シテ監督權ヲ行使スレトモ國家ノ監督處分ニシテ違法又ハ不當ナルトキハ市町村自治體ノ權利利益ヲ侵害スルノ結果ヲ生スルヲ以テ之ニ對シテ市町村ニ對シテ救濟ヲ與ヘサルヘカラス故ニ

市制町村制中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外凡市ニ於テ市ノ行政ニ關スル府縣知事若ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服アル場合ニハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得凡町村ニ於テ町村ノ行政ニ關スル郡長若ハ郡參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服アル場合ニハ府縣知事若ハ府縣參事會ニ訴願シ猶其裁決ニ不服アル場合ニハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得市制第百十六條町村制第百二十條又市町村町村組合ニ於テ府縣知事又ハ郡長ノナス所ノ所謂強制豫算ノ處分ヲ違法ナリトスルトキハ市ニ在テハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得町村町村組合ニ在テハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得其他市町村ノ處分ニ對シ人民ヨリ訴願ヲ提起シタル場合異議ヲ除キ莫ク訴願ノ場合ニ於テ監督廳ノ與ヘタル裁決ニ不服ナル市町村ハ人民ト等シク更ニ上級監督廳ニ訴願シ及行政訴訟ヲ提起シ得ルハ論ヲ待タズ

二 市町村ノ機關ニ對スル監督

市町村ノ機關ニ對スル監督權ハ議決機關及行政機關ニ及ブモノナリ議決機關ニ對スル監督作用トシテハ內務大臣ハ市町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散

ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選スヘキコトヲ命スヘク改選市町村會ノ集會スルマテハ府縣參事會市會ニ代リ郡參事會町村會ニ代リ一切ノ事件ヲ議決スルモノトス行政機關ニ對スル監督作用トシテハ府縣知事ハ市長助役市參事會委員委員區長其他市吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フヲ得又府縣知事郡長ハ町村長助役委員區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フヲ得懲戒處分ハ誹責及過怠金トス府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下郡長ノ處分ニ係ルモノハ十圓以下トス市長市參事會員町村長市町村助役委員區長其他市町村吏員ニシテ職務上ノ義務ニ違背スルコト再三ニ及ビ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者財產ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務舉ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得但臨時解職スルコトヲ得ヘキ者ニハ懲戒裁判ヲ用キス總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退職料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス懲戒裁判ハ市ニ在テハ府縣知事其審問ヲナシ府縣參事會之ヲ裁決シ町村ニ在テハ郡長其審問ヲナシ郡參會之ヲ裁決ス尙ホ監督官廳ハ懲戒

裁判ノ裁決前裁決ヲ受クヘキ吏員ノ停職ヲ命シ並ニ給料ヲ停止スルコトヲ得
 尙ホ懲戒ニ付テハ特別ノ懲戒法ヲ設クルマテノ間ハ官吏懲戒ノ例ヲ適用ス故
 ニ手續書ヲ徵スルカ如キ關係ハ官吏ノ懲戒令ニ依ルモノトス次ニ市町村吏員
 及使丁ニシテ其職務ヲ盡テス又ハ權限ヲ越エタルコトアルカ爲メ市町村ニ對
 シテ賠償スヘキコトアル場合ニハ市ニ在テハ府縣參事會、町村ニ在テハ郡參事
 會之ヲ裁決スルモノトス本來市町村吏員カ職務上ノ義務ニ違背シ又ハ權限外
 ノ行爲ヲナシ爲メ市町村ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラサル場合ハ
 單ニ法規權限ノ解釋ヲ誤リテ違法行爲ヲナシタル等ノ場合ヲ謂フニ非スシテ
 吏員カ故意又ハ大ナル過失ニ由リ吏員トシテノ職務ヲ行ハス又ハ吏員トシテ
 ノ權限ヲ超越シタル行爲ヲナシ即チ吏員ノ行爲ト見ルヘカラス一私人ノ行爲
 ト見サルヘカラサル積極的若ハ消極的行爲ヲナシ爲メ一私人トシテ市町村ニ
 損害ヲ與ヘタル場合ヲ謂フモノナルカ故ニ其賠償ハ民事上ノ損害賠償ノ性質
 ヲ有スルモノナレトモ法ノ特別ノ規定ニ依リ監督處分トシテ府縣參事會若ハ
 郡參事會ヲシテ之ヲ裁決セシムルナリ故ニ如斯キ事件ニ關シ市町村ヨリ別ニ

損害賠償ノ民事訴訟ヲ起スカ如キハ之ヲナシ得サルコト勿論ナリトス法ハ以
 上ノ處分ニ關シ處分ヲ受ケタル者ニ救済ヲ求ムルノ手段ヲ與フ即チ府縣知事
 ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得郡長ノ懲戒處分ニ不服アル
 者ハ府縣知事ニ訴願シ其裁決ニ不服アレハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得府縣參
 事會ノナシタル懲戒裁決ニ不服アル者ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得郡參事會ノ
 ナシタル懲戒裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ
 行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得吏員ノ賠償責任ニ關スル府縣參事會ノ裁決ニ不
 服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ行政訴訟ヲ
 提起スルコトヲ得但訴訟ヲナシタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財產ヲ差押ス
 ルコトヲ得同一事項ニ關スル郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ
 又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル
 者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但訴訟ヲナシタルトキハ郡參事會ハ假ニ其
 財產ヲ差押スルコトヲ得法ハ尙ホ市參事會ニ於テ市吏員等ニ對シテ行フ所ノ
 懲戒處分ニ不服ナル者ハ府縣知事ニ訴願シ其裁決ニ不服ナレハ行政訴訟ヲ提

起スルコトヲ得町村長ニ於テ町村吏員等ニ對シテ行フ所ノ懲戒處分ニ不服ナル者ハ郡長ニ訴願シ其裁決ニ不服ナレハ府縣知事ニ訴願シ其裁決ニ不服ナレハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ルコトヲ規定セリ最初市參事會町村長ニ於テ行フ所ノ懲戒處分ハ國家監督權ノ作用ニ非スシテ市町村團體カ自己ノ機關ニ對シテ其權力ヲ行フモノタルニ過キス然レトモ其處分ニ不服アル者ノ提起シタル訴願ニ對スル裁決ハ即チ國家監督權ノ作用タルナリ市制第百十五條乃至第百二十五條、町村制第百十九條乃至第百二十九條明治三十三年三月勅令第百二十三號、市町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件參看

第二章 行政區畫タル市町村

市ハ國ノ行政並ニ府縣ノ行政ヲ施行スル行政區畫ニシテ市長ニ依リテ統轄セラルレ町村ハ國ノ行政並ニ府縣郡ノ行政ヲ施行スル行政區畫ニシテ町村長ニ依リテ統轄セラル自治體タル市町村ノ機關タル市長町村長ハ同時ニ法律命令ノ規定スル所ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌スルモノトス

一 司法警察補助官タルノ職務及地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二 浦役場ノ事務

三 市長ニ在テハ國ノ行政並ニ府縣ノ行政ニシテ市ノ區域内ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設アルトキハ此限ニ在ラス

右ノ司法警察補助官タルノ職務トハ檢事ノ指揮ヲ受ケ犯罪搜查ニ從事スルヲ謂フ地方警察トハ國ノ警察ト相對シタイフモノニシテ主トシテ市町村ノ範圍ニ限ラレタル利益ニ關スル警察ヲ謂フ現今ハ未タ此事務ヲ市町村長ニ管掌セシムル法令ノ規定ナシ浦役場ノ事務トハ主トシテ海員ノ雇入雇止及水難救護ニ關スル事務ニシテ今日ハ浦役場ノ名稱ナク海員ノ雇入雇止ニ關スル事務ハ管海官廳ニ於テ之ヲ掌リ水難救護ニ關スル事務ハ單ニ市町村長トシテ之ヲ掌ルコトトナレリ東京市、大阪市、京都市ニ於テハ區長之ヲ行フ國ノ行政並ニ府縣郡ノ行政ニシテ市町村長ノ行フモノハ其數最多ク一一之ヲ列舉スル能ハス

此等ハ各種ノ法令ニ付テ見ルノ外ナシ以上ノ場合ニ於テハ市町村長ハ市町村
團體ノ機關タル資格ヲ離レ直接ニ國又ハ府縣郡ノ機關トシテ行動スルモノニ
外ナラス而シテ市町村ノ補助機關タル區長學務委員等カ法令ノ特別ノ規定ニ
依リ國ノ教育事務ニ關シテモ亦市町村長ノ補助機關トシテ行動スルハ勿論市
町村團體ノ機關タル町村長ノ職務ヲ補助シ又ハ市町村長ノ指揮ヲ受ケテ庶務
ニ従事スル市町村ノ機關ハ當然亦國ノ行政機關並ニ府縣郡ノ行政機關タル市
町村長ノ補助機關タルモノトス尙ホ前掲三項中ノ事務ハ市長ニ在ラハ之ヲ市
參事會員ノ一名ニ東京市大阪市京都市ノ市長ニ在ラハ之ヲ區長ニ町村長ニ在
ラハ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得其他人口二十萬以上ノ市ニシテ有給ノ
區長ヲ置タ地ノ市長ニ在ラハ之ヲ區長ニ委任スルコトヲ得但此等ノ場合ニハ
凡テ監督官廳ノ許可ヲ得サルヘカラス市町村長及其補助機關カ國ノ行政及府
縣郡ノ行政ヲ行フニ當リテハ各國府縣郡ノ機關トシテ上級機關ノ指揮監督ヲ
受クルモノナレトモ其職務ヲ盡ササル場合ニ於ケル懲戒ノ如キハ法ニ別段ノ
規定ナキ場合ニ於テハ當然市制町村制ニ規定セル懲戒例ヲ適用セラレルモノ

トス市町村長カ國ノ行政機關又ハ府縣郡ノ行政機關トシテ管掌スル事務ハ固
ヨリ市町村團體ノ事務ニ非サルカ故ニ市町村會ノ議決ヲ要スヘキモノニ非ザ
ルハ論ヲ待タスト雖モ其執行ノ爲ニ要スル費用ハ法ノ特別ノ規定ニ依リ市町
村團體ノ負擔ニ屬スルモノナルカ故ニ其費用ニ付テハ市町村會ノ議決ヲ經ル
ヲ要スルモノトス市制第七十四條町村制第六十九條明治三十三年三月勅令第
九十八號東京市京都市大阪市ヲ除クノ外人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル件
船員法水難救護法參看

附言 市制町村制中ニ所謂市町村ノ人口トハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍
人ヲ除キタル數ヲ謂ヒ而シテ人口調査ハ内閣統計局ニ於テ調査シ官報ヲ
以テ報告スル最近ノ人口ニ依ル若シ該報告アリタル後市町村ヲ廢置分合
シ又ハ其境界ヲ變更シタルトキハ次回ノ報告アルマテノ間其處分ヲナシ
タルトキノ現在ニ依リ調査シタル人口ニ依リ其人口ハ府縣知事ニ於テ之
ヲ調査シ管内ニ告示スヘキモノトス明治三十二年十二月內務省令第五十
八號市制第三百三十條町村制第三百三十五條ニ規定セル市町村ノ人口ノ件參

市制町村制目次

緒言

第一章 自治體タル市町村

第一節 總說

第二節 市町村ノ成立及廢合

第三節 市町村ノ構成

第四節 住民ノ權利義務

第五節 市町村ノ機關

第一款 議決機關即チ市町村會

第二款 行政機關

第六節 市町村ノ行政

第七節 町村組合及町村學校組合

第八節 市町村內ノ區

市制町村制目次

一
二
二
九
一三
一九
三一
三二
五三
七六
一三六
一四三

第二章 行政區畫タル市町村

市制町村制目次終

不動産登記法

緒言

我國ノ法學者由來實體法ノ研究ヲノミ惟勉メ形式法ヲ輕視スルノ傾向ヲ免レ
 ス登記法ニ付キ殊ニ其然ルヲ見ル然レトモ登記法ハ實ニ物權法ノ基礎ヲ爲ス
 モノニシテ唯一片ノ形式法ヲ以テ之ヲ目スルヲ得ス物權ニ關スル理論ハ登記
 法ノ研究ニ依ルニ非サレハ之ヲ闡明スル能ハサルモノ少シトセス而シテ從來
 登記法ニ關スル二三ノ著書ナキニ非サルモ唯徒ニ法文ノ解釋ヲ下シ字句ノ註
 疏ヲ施スニ過キヌ系統的且理論的ノ説明ヲ加ヘタルモノアルヲ見ス余常ニ之
 ヲ憾トス今同法政大學總理梅博士余ニ囑スルニ不動産登記法ヲ講述シテ同大

學發行スル所ノ特別法條義錄ニ掲載ス可キヲ以テセラル、乃舊稿ヲ修シテ之ニ應スルモノハ蓋之カ爲メナリ

第一章 總論

物權ハ其效力強大ナルヲ以テ外部ヨリ其權利狀態ヲ窺ヒ知ルコトヲ得セシメ以テ第三者ヲ保護スルコトヲ要ス羅馬法ハ純然タル私法的ノ理論ニ從ヒ動產不動産ヲ通シテ引渡ニ依リ物權ノ得喪ヲ生スルモノトセリ然レトモ引渡ノ制ハ之ニ依リ事實狀態ト權利狀態トヲ一致セシメ何人カ權利者ナルカヲ知ルヲ得セシメ多少公示ノ手段ト爲ラサルニ非スト雖モ而モ決シテ完全ナルモノト云フ可ラス又不動産ハ管ニ私權ニ關係アルノミナラス又一國ノ政治經濟ノ基礎タルモノニシテ公益ニ關スル鈔カラサルカ故ニ不動産ノ權利狀態ハ特ニ之ヲ公示スルノ方法ヲ設クルコト必要且便利ナリ此公示方法トシテハ從來種種ナル方法用ヒラレシモ今日ニ於テハ各國多クハ皆登記ノ制ヲ採用スルニ至ンリ然レトモ其組織ニ於テハ法制必スシモ一致セズ今其概要ヲ示セハ凡ソ左ノ

三種ニ分ツコトヲ得

(イ) 獨逸主義或ハ登記主義(Eintragungssystem) 獨逸ニ於テハ登記ニ關スル法制區區タリモヤ(Motiv II 9 ff. Stobbe Lehmann, deut. Priv. H. II. 1. §60-§83) 概シテ登記主義ニ從ヒ唯其中ニ(一)登記ノ強制ヲ一般不動産物權ニ及ホスモノ所謂土地登記簿主義 Grundbuchsystem)ト及之ヲ抵當權ニ限ルモノ所謂抵當登記簿主義 Hypotheken-ad. Grundbuchsystem)トノ二種アリタレトモ新民法民八七三以下ハ土地登記簿主義ヲ採ル此登記主義ノ特性ハ(一)不動産物權ノ得喪ニハ必ス登記ヲ要スルコト(Einführungsprinzip)(二)登記ニハ公信力アルコト(Publizitätsprinzip)即チ善意ノ第三者ニ對シテハ登記ノ事實ハ眞實ト看做サル可キコト(三)適法ナル權利ノ得喪アルヤ否キヲ審査シタル後登記ヲナスコト(Legaltitätsprinzip)及(四)土地ニ依リ登記簿ヲ編制シ一筆 土地ニ一用紙ヲ具フルコト(Prinzip der Realfolians)ノ四點ニ存ス瑞西中ノ獨逸カントン即チラウヴェンデン(民一八六一八七三二八二二八六以下一八八〇年六月十五日法「グラールス」)一八四二年法「ラプワルデン」ニヤ「ドワルデン」「シエワイツ」「ソロウレン」(民八九九以下一八七三年五月三日法「ハイ

ゼルスタットニダオー(一八八二年法蘭サン)ダレン「アッペンワエル」モルン(民四三四以下、九四七以下)「アルツネルン」(一八六一年六月六日法「アルガウ」(民五一以下、五七四以下)「チーリッヒ」(民二四二、二七三、〇一三、三八以下、一八三九年六月二十日法「シャフハウゼン」)「ブーグ」等モ登記ノモニ付キ云へハ此主義ニ從フモノト云フ可シ其他澳(一八七一年七月二十五日法)匈(一八五五年十二月十五日法)「ダムマチー」(一八八一年二月十日法)魯(殊ニ「ボーランド」)一八一八年四月二十一日法瑞典(一八七五年六月十六日法)等多少ノ差異アレトモ皆此主義ニ從フ又蘭民六〇九一二二四唯蘭ニ在リテハ登記簿ハ人名ニ依リ編纂シ此外ニ土地番號ニ依リ編纂セル參照簿ヲ備へ其他佛主義ヲ加味ス但權利得喪ニ登記ヲ要スルノ點ハ獨主義ナリトス)

(ロ) 佛蘭西主義或ハ登録主義 (Inscription und Inscriptionssystem) 是佛法ノ主義民七一一、一一三八、一五八三、一八五五年三月二十三日法ニシテ之ニ依レハ(一)不動產物權ノ得喪ハ契約又ハ其他ノ事實ニ因リテ生シ登記ヲ要セス唯登記ヲ爲サザルトキハ其不動産ニ關シ後ニ權利ヲ取得シ之ヲ登記シタル第三者ニ對抗ス

ルコトヲ得サルモノトス(二)故ニ登記ノ強制ナク又登記ニ公信力ナシ(三)登記其モノノ效力トシテハ唯權利取得ノ順位ヲ定ムルノ效力アルニ過キス(四)此主義ニ於テハ登記簿ハ權利取得者ノ氏名ニ依リテ編制セラルルヲ常トス (Zinshp des Personals) 而シテ此諸點ハ皆此主義ノ缺點トシテ指摘セラルル所トス白(一)一八五一年十二月十六日法伊(民一九三二以下、一九八一以下)希(一八三八年八月十一日抵當法及一八五七年十月二十九日登記法)葡(民七一五、九四九、一七二、二一八、七五五年六月十六日法)瑞西ノ羅馬カントン(「ジュネーブ」)一八二〇年六月二十八日法「フライブルヒ」(「ヌーシャテル」)「ヴリス」(「ラッセン」)其他「ルーマニヤ」佛(民及一八五五年法「モナコ」)一八八四年十月二十五日法「ルユクサムブル」(「佛」)「ルイジヤナ」(「カナダ」)等之ニ從フ蘭(民六〇九、一八六一年二月八日法)但一旦登記ヲ爲ストキハ其登記ハ攻撃ス可ラサルモノト爲スノ點ニ於テ佛主義ニ異ル然レトモ登記ハ猶得喪ノ要件ニ非ス引渡ヲ以テ要件トスモ亦此主義ナリト雖モ多少異ル所アリトス

(二) 「ドールン」主義 (Dorrensistem) 此主義ハ Sir Robert Torrens ノ創見ニ係リ

八五八年始テ Real Property Act ノ名稱ノ下ニ南濠洲ニ行ハル此主義ハ獨逸法ノ主義殊ニ「ハンザ」市府ニ行ハレタル不動産移轉ノ慣習若クハ船舶ノ買賣ニ行ハレタル規則ヨリ考案ヲ立テタルモノノ如ク各土地ニ對シ地券ヲ發シ此地券ヲ以テ土地ヲ代表セシメ之ニ土地ノ買賣質入等ヲ記入シ同時ニ之ニ相當スル登記簿ヲ備フルノ方法ナリ此主義ニ於テハ先ツ土地ノ現狀ヲ確定スルノ手續ヲ爲シ之ヲ Immatriculation ト云フ南濠洲ノ法律ニ在リテハ之ヲ求ムルヤ否ヤハ土地所有者ノ自由ニシテ所有者ハ其請求書ト共ニ所有地ノ地圖及其權利並ニ負擔ヲ證明ス可キ書類ヲ提出シ登記官ハ委員ヲシテ之ヲ審査セシメタル上請求ヲ許否ス請求ヲ許シタルトキハ一月乃至三年ノ期間濠洲及英國ノ新聞紙ニ公告シ利害關係人ニ異議ノ申立ヲ催告ス其中立ナキ時又ハ申立アル時ハ之ヲ裁判シタル後其土地ノ權利狀態ヲ確定ス然ル後登記官ハ土地ノ權利狀態ヲ記載セル二通ノ地券ヲ作り一通ヲ所有者ニ送付シ一通ハ之ヲ留メ之ヲ編纂シテ登記簿ト爲ス此 Immatriculation ノ手續ヲ終リタルトキハ地券面ノ記載ハ動ス可ラサルモノト爲ル而シテ此後其土地ニ關シ各種ノ行爲ヲ爲ストキハ地券ヲ登記

官ニ送リ地券及登記簿ノ雙方ニ適當ノ記入ヲ爲スモノトス土地ノ讓渡ノ場合ニハ一定ノ形式ニ從ヒ讓渡證書ヲ作り地券ヲ添ヘテ登記官ニ送付シ登記官ハ審査ノ後登記簿ニ權利移轉ヲ記入シ讓渡證書ハ登記所ニ留メ而シテ地券ハ以前ハ讓受人ニ對シ新ナル地券ヲ發行シタレトモ今日ハ土地ノ一部讓渡ノ場合ノ外讓受人ハ新ナル地券ヲ受クルモ又ハ舊地券ニ讓受ノ記入ヲ受クルモ其自由ニシテ而シテ登記官ハ其新ナル地券又ハ舊地券ニ讓渡ノ記入ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ送付ス又其土地ニ物權ヲ設定スル場合ニ於テモ一定ノ形式ニ從ヒ物權設定證書二通ヲ作り地券ヲ添ヘテ之ヲ登記官ニ送付シ登記官ハ審査ノ後登記簿及地券ニ物權設定ノ記入ヲ爲シ設定證書ノ一通ト共ニ之ヲ所有者ニ返還ス若シ其後其登記ノ抹消ヲ爲サントスル時ハ所有者ハ權利者ヲシテ設定證書ニ物權消滅ノ裏書ヲ爲サシメ地券ト共ニ之ヲ登記官吏ニ送付シ登記官吏ハ其權利ノ消滅ヲ登記簿及地券ニ記入シテ之ヲ返還ス而シテ凡テ土地ニ關スル物權ノ設定移轉ハ登記簿ニ登記スルニ非サレハ當事者間ニ於テモ效力ナク而シテ權利ノ順位ハ證書ノ日附ニ依ラス登記ノ順序ニ從フモノトシ又地券面及登

記簿ノ記載ハ完全ナル公信力ヲ有スルモノトス故ニ此主義ハ凡テ獨逸主義ノ長所ヲ集メ且各所有者ハ登記簿ニ相當スル地券ヲ其手ニ有スルカ故ニ大ニ不動産權ノ得喪ノ方法ヲ簡易ニシ從テ費用ヲ減少シ土地ノ抵當質入ヲ迅速且隆盛ナラシムルヲ以テ一般ニ此主義ノ利便トシテ認メラルル所ナリ然レトモ一方ニハ此主義カ詐欺ヲ容易ナラシムルノ弊アリ及土地ニ關スル權利關係ノ複雜ナラサル新開ノ土地ニ適スルモ土地ノ所有權分裂シ又土地擔保ノ方法ノ複雜ナル國ニ適セサルコトハ又一方ニ認メラルル所ナリ今日ニ於テハ forum 主義ハ南濠洲ノミナラスタイヌランド「ピクトリヤ」タスマニー其他殆ント凡テノ濠洲殖民地ニ行ハレ濠洲以外ニテハ「セーロン」「一八六八年」「ニュージラランド」「一八七〇年」「コロム比亞」「シンガポール」「海峽殖民地」「一八八六年」等ノ英領地ニ行ハレ亦佛領ニ於テモ「チニス」「一八八五年」ニ行ハレ「アルゼリー」ニモ之ヲ行ハントスルノ企アリ

(二) 無登記主義 從來獨逸普通法ニ從ヒタル獨逸ノ一部ニハ全ク不動産登記ノ制ナカリシカ今日ニ於テハ各國殆ント登記ノ制ナキハ稀ニシテ唯英米ニ於

石場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキハ財產所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲ス(本法第二條第三項後段)

(五) 債務履行地ノ裁判籍 此裁判籍ニ付テハ本法第八一條第八三條ニ之ヲ規定セリ

(六) 共有物分割地ノ裁判籍 此裁判籍ニ付テハ本法第一一七條ニ之ヲ規定セリ

(七) 不動産所在地ノ裁判籍 此裁判籍ニ付テハ本法第八四條ニ之ヲ規定セリ

(八) 普通裁判籍アル地ノ裁判籍 此裁判籍ニ付テハ本法第七三條ニ之ヲ規定ス(普通裁判籍ニ付テハ民事訴訟法第一〇條乃至第一四條ヲ參照スヘシ)

(九) 第一審ノ受訴裁判所 此裁判籍ニ付テハ本法第六六條第六七條第六八條及ヒ第九三條ニ之ヲ規定ス

以上ノ如ク非訟事件ニ於テハ各種ノ裁判籍アルヲ以テ時トシテ同一事件ニ付キ數箇ノ管轄裁判所存在スルコトアルヘシ例之財產所在地若クハ不動産所在

地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲スヘキ場合ニ於テ其財産又ハ不動産カ各地ニ散在セルトキ又ハ本法第一〇九條ノ場合ニ於テ住所地若クハ相續開始地ノ裁判所カ共ニ管轄裁判所タルトキノ如シ然ルトキハ孰レノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲スヘキヤト問ヘハ數箇ノ裁判所中既ニ事件ノ申立ヲ受ケタルモノアルトキハ最初ニ其中立ヲ受ケタル裁判所專ラ其事件ヲ管轄スルニ至ルモノトス(本法第三條五シ裁判所ノ裁判其他ノ行爲ノ矛盾ヲ防クカ爲メナリ)

第三項 管轄裁判所ノ指定

管轄裁判所ノ指定トハ裁判所ノ裁判ニ因リテ管轄權ナキ裁判所ニ對シテ新ニ管轄權ヲ附與スルモノナリ(管轄裁判ノ指定ノ性質ニ付テハ異論多シ詳細ハ余輩ノ民事訴訟法講義第一編第一章第四節第二款第四項ヲ参照セラレタシ)是レ事件ノ關係人ヲシテ管轄裁判所ナキ不幸ヲ免レシメシカ爲メトリ非訟事件手續法ニ於テ管轄裁判所ノ指定ヲ爲ス場合ハ左ノ如シ

(一) 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ

行フコトヲ得ス且裁構法第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得ザルトキ本法第四條第一項裁構法第一〇條第一號)

(二) 數箇ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキ(本法第四條第一項)

以上ノ場合ニ於テハ事件ノ關係人ハ管轄裁判所指定ノ申請ヲ爲スコトヲ得其申請及ヒ裁判手續ニ付テハ民事第二八條ヲ参照スヘシ(本法第四條第二項) 適法ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ於テ管轄裁判所指定ノ裁判ヲ爲ス(裁構法第一〇條關係アル各裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級裁判所ノ意義ニ付キ異論アリ詳細ハ余輩ノ民事訴訟法講義ヲ一讀セラレタシ)

第四項 法律上ノ共助

非訟事件ニ於テモ裁判所ハ他ノ裁判所ニ法律上ノ補助ヲ求ムル場合尠カラズ例ヘシ證據調ノ囑託ヲ爲スカ如キ場合はレナリ(本法第一〇條第一一條民事第

二七三條法律上ノ共助ニ付テハ裁權法第一三一條第一二三條ヲ參照スヘシ

第二章 關係人

非訟事件手續法ニ於テハ第二百七條ノ場合ノ外當事者ナル用語ナクシテ凡テ關係人ナル術語ヲ使用セリ故ニ此關係人ナル觀念ハ民事訴訟法ニ於ケル當事者ニ該當スルモノナラトス

第一節 關係人ノ觀念

民事訴訟手續ニ於テ當事者ノ觀念ヲ定ムル必要アルカ如ク非訟事件手續ニ於ケル關係人ノ觀念ヲ明カニスルコト最も必要ナリ蓋シ非訟事件手續法上關係人タル地位ニ或效果ヲ附シタルヲ以テナリ例之關係人タル人如何ニ因リテ裁判所ノ構成ニ影響ヲ及ホス如キ關係人ハ證人若クハ鑑定人トナル能ハサル如キ關係人トシテ關係上證人鑑定人カ供述ヲ拒ムコトヲ得若クハ此等ノ者ニ對シテ宣誓セシムルコトヲ得サルカ如キ費用負擔者クハ裁判告知ニ付キ關係人ノ難

タルヤヲ知ルノ必要アルカ如キ是レナリ然レトモ民事訴訟法ニ於テ當事者ノ觀念如何ハ學說上多少異論ナキニ非サルモ法ノ明文上訴訟關係ニ於テハ原告及ヒ被告執行關係ニ於テハ債權者及ヒ債務者ノ當事者タルコトハ毫モ疑ナキヲ以テ要スルニ其觀念ヲ究ムルコト比較的容易ナリ之ニ反シ非訟事件ニ在テハ關係人ノ何人タルヤニ付キ明文ノ徵スヘキモノナキヲ以テ其觀念ヲ定ムルコト頗ル困難ナリトス余輩ノ考フル所ニ依レハ非訟事件ノ範圍ハ既ニ述ヘタル如ク頗ル廣ク且複雑ナルヲ以テ非訟事件ノ本質ヲ究ムルノ難キト同シク關係人ノ意義モ亦到底之ニ單純ナル一概念ノ下ニ表示スル能ハサルモノナリ

非訟事件ト訴訟事件トノ區別ノ標準ハ一私人カ裁判所ニ對シ或行爲ヲ要求スル其原因タル私法關係ノ争ニ繫ルト否トニ求ムル能ハサルコトハ既ニ述ヘタル如クナルヲ以テ非訟事件中ニモ亦争訟手續アルヤ言フ俟タス例之裁判所カ相手方ヲ定メテ審問ヲ開ク場合ノ如キ從テ此等ノ手續ニ於テ申立人及ヒ其相手方カ訴訟事件ニ於ケル原告若クハ被告ト同シク其事件ノ關係人タルコトハ

異論ナキ所ナリ而シテ此ノ如キ純然タル争訟手續ニ非サル他ノ非訟事件手續ニ於テモ申立人カ關係人タルコトハ亦疑ナシ然レトモ以上ノ者以外ニ何人カ當事者タルカハ是レ則チ最モ困難ナル問題ナルモ一般ノ場合ヲ包括セシメテ定義ヲ下ストキハ

非訟事件ニ於テ關係人トハ其事件ノ終局的處分ニ因リテ直接ニ權利上ノ利害關係ヲ有スル者ヲ謂フ

故ニ關係人ハ直接ニ權利上ノ利害關係ヲ有スル者ナルヲ以テ不在者ノ財産管理事件ニ於テハ其申立人ノミナラス不在者亦其關係人タルモ株式會社ノ登記事件ニ付テハ其株主夫婦財産契約ノ登記事件ニ付テハ其子ノ如キハ單ニ間接ノ利害關係アルニ過キサルヲ以テ所謂關係人ニ非ス然レトモ直接ニ權利上ノ利害關係ヲ有スル以上ハ其事件ノ手續ニ事實上參加スルト否トハ問フ所ニ非サルナリ而シテ何人カ其事件ニ付キ直接ノ利害關係ヲ有スルヤハ全ク事實問題ニシテ争アレハ裁判所之ヲ決スル外ナキモ立法者ハ其困難ヲ慮リ豫メ法律ノ以テ之ヲ明定シタル場合アリ競賣法第二十七條第三項ノ如シ此等ノ場合ニ

於テハ同條ニ規定セル利害關係人ハ總テ關係人ナリトス又右定義ニ所謂處分トハ裁判所ノ決定若クハ登記ノ如キ單純ノ處分ノ意義ニシテ終局的處分トハ證據開ヲ命スル決定ノ如キ豫先處分ヲ云フニ非シテ事件身體ヲ終局セシムル處分ヲ稱スルナリ

第二節 非訟能力

非訟能力トハ非訟行為即チ非訟事件手續法上ノ效果ヲ生スル行為ヲ爲スノ能力ヲ云フ故ニ非訟能力ハ民事訴訟ニ於ケル訴訟能力ニ非訟行為ハ同シク訴訟行為ニ該當スル觀念ナリトス用語不穩當ナルモ一定ノ術語ナキヲ以テ假ニ此新語ヲ創設シテ使用スルコトトセリ

訴訟能力ニ付テハ民事訴訟法第四十三條ニ依リ民法ノ規定ニ從フトアルヲ以テ訴訟能力ノ有無ハ行為能力ノ有無ニ一致スヘキモノナルモ非訟能力ニ付テハ非訟事件手續法上何等ノ明文ナキニ因リ未成年者準禁治產者妻ノ如キ行為無能力者ト雖モ自ラ裁判所ニ對シ非訟行為ヲ爲スコトヲ得ルヤノ疑ナキニ非

然レトモ余輩謂ヘラク非訟事件手續ニハ職權ニ因ル手續ト申立ニ因ル手續トアリ而シテ職權ニ因ル手續ニ於テハ關係人ハ單ニ裁判所ノ行爲ノ目的タルニ過キサル場合アルヲ以テ必スシモ行爲能力者タルコトヲ要セザルナリ本法第六條但書之ニ反シ申立ニ因ル手續ニ於テハ申立ノ原因タル法律關係ニ付キ實證法上申立人カ法律行爲ヲ爲シ得ル能力アルニ非サレハ其申立モ亦之ヲ爲シ能ハサルモノト解セザルヲ得ス何トナレハ非訟事件ハ私權ノ明示ト實行トヲ目的トスルモノニシテ且非訟事件手續法ハ私法ヲ運用スル手續法ナルヲ以テ私權行使ノ能力ナキ者ハ又私權ノ明示若クハ實行ノ行爲能力ナキヤ當然ナレハナリ之ヲ以テ債權者カ裁判上ノ地位ヲ自ラ申請スル場合ニハ其債權者ハ固ヨリ行爲能力ヲ有セザルヘカラス又未成年者ト雖モ商業ヲ營ムコトヲ許可セラレタルトキハ其商業ノ範圍内ニ於テハ行爲能力者ナルヲ以テ自ラ其登記ヲ申請スルコトヲ得ヘシ故ニ非訟能力ノ有無モ亦訴訟能力ノ有無ト同シク行爲能力ノ有無ニ一致スルモノト謂ハサルヲ得ス

非訟能力ノ性質ニ付テハ學者ノ未タ研究シ及ハサル所ナルヲ以テ今日ニ於

テ尙ホ未知ノ問題ナリトス

從テ行爲能力者カ非訟行爲ヲ爲サント欲セハ法定代理人ニ依リテ之ヲ爲スカ若クハ法定代理人ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲シ能ハサルモノトス

第三節 關係人ノ代理人

關係人ノ代理人ニ法定代理人ト委任代理人トアルモ法定代理ニ付テハ民法ニ規定スル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ説明スルノ繁ヲ避ケ單ニ委任代理人ノミニ付キ講述スヘシ

民事訴訟ニ於テハ當事者自ラ訴訟行爲ヲ爲ササルトキハ地方裁判所以上ニ於テハ辯護士ヲ以テ訴訟代理人トシテ訴訟ヲ爲サシムルヲ原則トシ辯護士ノアラサル場合若クハ區裁判所ニ於テハ訴訟能力者タル親族雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲シ此等ノ者アラサルトキ始メテ他ノ訴訟能力者ヲ代理人ト爲スコトヲ得ルナリ然ルニ非訟事件ニ於テハ緒論ニ於テ述ヘタル如ク手續ノ簡易迅速及ヒ勞費節減主義ヲ採用スルヲ以テ苟モ訴訟能力者タル以上ハ辯護士ノ有無又

ハ親族ノ一人ノ有無ヲ問ハス何人モ之ヲ直チニ代理人ト爲スコトヲ許シタリ唯
裁判所カ本人自身ノ出頭ヲ命ジタルトキハ代理人ヲ命スルコトヲ得ザル制限
アルノミ(本法第六條第一項)

尙ホ訴訟事件ニ付テハ法律上ノ智識ヲ要スルト所謂辯論ヲ業トスル徒輩ヲ
排除シ健訟ノ弊ヲ吐絶スル必要アルトニ因リ辯護士制度ヲ設ケ以テ辯護士
ヲ代理人トシシムル必要アルモ非訟事件ニ在テハ法律上ノ智識ヲ要スル妙
ナキト事件ニ依リテハ(例之登記事件ノ如キ)寧ロ其提起ヲ獎勵スヘキモノナ
レハ成ルヘク其中立ヲ容めナラシメサルヘカラス是レ訴訟行爲ニ比シ廣ク
代理人ノ選擇ヲ許シタル所以ナリ

訴訟能力ノ如何ハ民事訴訟法ニ於テ研究スヘキコトト信スルヲ以テ之ヲ贅
セス余輩ノ民事訴訟法講義第一編第二章第二節第二款ヲ參照セラレタシ)
事件ノ關係人カ訴訟能力者ヲ代理人ト爲シタルトキハ其委任アリタルコトヲ
證明セサルヘカラス而シテ委任ノ欠缺アルトキハ其手續及ヒ裁判ハ總テ無効
トナルヲ以テ委任ノ證明ハ後日ノ爭ヲ豫防スルカ爲メニ必ス裁判所ノ記録ニ

備フヘキ書面委任ヲ以テ之ヲ爲スカ又ハ裁判官ノ面前ニ於テ口頭委任ヲ爲シ
其陳述ヲ圖書ニ記載セシメテ之ヲ爲スヘキモノトス若シ書面委任カ私署證書
ナル場合ニハ裁判所ハ職權ヲ以テ其證書ニ公證人又ハ相當官吏ノ認證ヲ受ク
ヘキ旨ヲ命スルコトヲ得民事訴訟法ニ在テハ私署證書ハ相手方ノ求ニ依リテ
認證スヘキモノナルモ民事訴訟法第六條第二項非訟事件ニ於テハ相手方ナル者ナ
キコトアルノミナラス非訟事件ハ干渉主義ヲ採用スル結果民事訴訟法第六四
條第二項ヲ準用セスシテ職權ヲ以テ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スコトヲ得ト規定
セル所以ナリ而シテ此命令ニ對シテハ關係人ヨリ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ許
サス是レ手續ノ簡易迅速ヲ尙フ主義ヨリシテ濫リニ時日ヲ蔓延シテ事件ノ滯
滞ヲ來ササラシメシカ爲メナリ(本法第七條)

非訟事件手續ニ於テ事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲ輔佐人トシテ共ニ裁判所
ニ出頭スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ議論アリ多數ノ學者ハ明文ナキヲ以
テ之ヲ許サスト説明スルモ輔佐人ハ關係人本人ノ不充分ナル行爲ヲ補充シ
以テ關係人本人ヲ補助スルニ過キサルモノナレハ之ヲ許スモ何等ノ妨ナキ

モノトス況ヤ辯護士委任ヲ本則トスル民事訴訟法ニ於テスラ之ヲ許スニ辯護士委任主義ヲ採用セザル非訟事件手續法ニ於テ何故ニ之ヲ許サザルカ解スヘカラサルニ於テフヤ或ハ謂ハン非訟事件ニ於テハ廣ク何人ヲモ訴訟代理人ト爲スコトヲ得ルヲ以テ輔佐人ヲ置クノ必要ナカルヘシト然レトモ是レ大ナル謬見ニシテ代理人ト輔佐人トハ其本質非常ニ差異アルモノナリ代理ノ場合ニ於テハ關係人自ラ非訟行為ヲ爲サスシテ代理人ニ委任シテ之ヲ爲サシムルモノナリ故ニ其行為ハ代理人ノ行為ニシテ唯行為ノ效果カ本人ニ及フノミ然ルニ輔佐人ノ場合ニ於テハ關係人自ラ行為ヲ爲スモノニシテ輔佐人ハ之ト共ニ出頭シテ其不充ナル行為ヲ補充スルニ過キス故ニ輔佐人ノ行為ハ本人ノ行為ナリ斯ノ如ク代理人ト輔佐人トハ法律上ノ性質異ナルノミナラス裁判所カ關係人自身ニ出頭ノ命シタルトキハ其關係人ハ代理人ヲ用ユル能ハス此場合ニ於テ關係人自身カ充分ニ事實ヲ知悉セザルカ又ハ完全ニ陳述スル能力ナキトキハ輔佐人ヲ使用セシムルコト裁判所及ヒ關係人ニ取リテモ最モ必要ナルヘシ是レ余輩カ明文ナキニ拘ハラズ關係人ハ

別スルニ頗ル困難ナル場合アリ例ヘハ近來茶碗ノ周圍ヲ二重層ト爲シ外層ニ種種ノ模様ヲ透彫セルモノアリ或人ハ曰ク二重層ト爲セシハ熱湯ヲ盛ルモ手ヲ熱セザル爲メニセルモノナルヲ以テ是レ實用意匠ナリ或ハ曰ク透彫ヲ現セシメシカ爲メニセルモノナルヲ以テ是レ意匠ナリト二重層カ手ヲ熱セザルノ實用ハ之ヲ認メザルヘカラス然レトモ考案者ノ意思ハ或ハ單ニ透彫ニ在ルヤモ知ルヘカラス花模様ノ透彫カ意匠ノ性質アルコトハ經フヘカラスト雖モ二重層ト爲セル點ハ何レトモ見ルコトヲ得ヘシ二重層カ形狀ト稱スヘキヤ否ヤハ論外トシテ又例ヘハ「ランブ」ノ「ホヤ」ヲ一定ノ美色ニ染メ美觀ヲ興フルト同時ニ視力ヲ保護スル效用アリトスレハ是亦就レトモ見ルコトヲ得ヘシ又始メコト考案者カ美觀ト實用トノ兩目的ヲ以テ一意匠ヲ提出スルコト稀ナリトセズ故ニ實際ニ於テハ實用意匠ト意匠トハ判然タル區別ヲ爲スコト能ハサル場合勸カラス此ノ如キ場合モハ考案者ハ任意ニ其一方ヲ擇ヒテ登録ヲ出願スルコトヲ得ヘシ實用意匠保護法アリト假定シテ

七 意匠ハ美觀ヲ目的トスルモ之ヲ適用スヘキ物品ハ實用品ナリ此ヲ以テ意匠保護法 意匠

匠ハ彼ノ著作權ノ目的タルヘキ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ト區別セラル著作物ハ美術の考案カ一定ノ形式ニ依リテ實現シテ繪畫彫刻等トナルヤ其目的ハ終局スルナリ之ニ反シテ意匠ハ考案カ實現シテ雛形トナリ雛形ハ工業上ノ物品ニ應用セラレテ其目的ヲ達スルモノニシテ雛形カ獨立シテ美觀ヲ爲スニ非ス又實用ヲ爲スニ非サルナリ外國法ニ於テ實用意匠ヲ意匠ト等シテ雛形トシテ保護スル所以モ亦此理ナリ發明ニ於テハ考案其物カ直ニ保護セラルルト云フハ物品ノ發明即チ考案カ一定ノ形式ニ依リテ實現スルトキハ直ニ物品其物タルモ實用意匠中ニ屬スヘキ考案ハ物品其物ヲ構成スヘキモノニ非スシテ寧ロ或物品ニ應用セラルヘキ形狀又ハ裝置ニ過キササルヲ以テナリ此ノ區別ハ理論ニ非ス實際ヲ概括シテ言ヘルナリ

意匠ハ工業上ノ物品ニ應用セラルヘキモノト定マリアルモ美術ノ範圍ニ屬スヘキ著作物ハ實用品ニ非スト云フノミニシテ其形體構成等ニ制限ナキヲ以テ實際ニ於テ意匠ヲ應用シタル實用品ト美術品トヲ客觀的ニ區別スルコトヲ得ナル場合アリ例セハ織物陶器磁器等ノ如シ外國ニハ本邦ノ陶磁器ノ皿ヲ純然

タル裝飾トシテ壁間ニ掛タル習慣アルヲ以テ近來ハ全ク裝飾品ノ目的ヲ以テ之ヲ製造スル者アルニ至レリ此ノ如キ物ハ皿ノ形ヲ成セル美術品ト云フヘキヤ將タ實用品タル皿ト見ルヘキヤ一定シ得ヘカラス

八 意匠ハ工業上ノ物品ニ應用スヘキモノナラザルヘカラザルコトハ已ニ述ヘタリ而シテ工業上ノ物品ニ應用スヘキ意匠ト雖モ左ニ掲タルモノハ登錄ヲ受タルコトヲ得ス(第二條)

- 一 菊花御紋章ト同一若ハ類似ノ形狀模様ヲ有スルモノ
 - 二 秩序又ハ風俗ヲ著ルノ虞アルモノ
 - 三 意匠登錄出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用キラレタルモノ若ハ之ト類似スルモノ但シ自己ノ登錄意匠ト類似スルモノハ此限ニアラス
- 之ヲ特許法第二條ノ規定ト比較スルニ特許法第二條ノ第一號及第二號ハ飲食物嗜好物醫藥又ハ其調合法ニシテ意匠法ニハ之ヲ缺ケリ是レ意匠ハ單ニ其外觀ニ關スルモノニシテ之ヲ專用セシムルモ之カ爲メニ人生ノ便用ヲ減殺スルノ虞ナキニ因ル(特許法講義三九頁參照之ニ反シテ本條第一號ノ菊花御紋章ト

同一若ハ類似ノ形狀摸樣ヲ有スルモノハ性質上特許法上ニ之レ無キ所ナリ或ハ意匠ニ於テモ已ニ第二號ニ秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノヲ掲ケタル以上ハ第一號ハ特ニ之ヲ規定セサルモ當然第二號中ニ包含セラルベキモノナリト云フ者アレトモ菊花御紋章ト同一ナル意匠ト雖モ其用方ニ依リテハ必ズシモ常ニ秩序ヲ紊ルモノト謂ヒ難シ而シテ立法者ハ其秩序ヲ紊ルト否トノ事實ヲ問ハス全然菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ意匠ノ登録ヲ禁セシト欲セルナリ特許法第二條第四號ノ但書ハ但シ試驗ノ爲ニ二年以内公ニ知ラレタルモノハ此ノ限ニアラスト規定セリ此規定ノ意匠ニ必要ナキハ辯ヲ要セサルヘシ之ニ反シテ意匠法第二條第三號ニ於テハ意匠登録出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用キラレタルモノノ外更ニ之ニ類似スルモノヲ添加セリ發明ニ於テハ考案其物カ目的ナルヲ以テ問題ハ考案ノ均等ナルヤ否ヤノ判斷ニ依リテ之ヲ決スヘク物ノ形狀ノ類似ト否トヲ論スルノ必要ナシト雖モ意匠ハ之ト異ナリテ雜形ノ形狀摸樣ヲ目的トスルモノナルヲ以テ彼此多少相異ナル點アルトモ即チ同一ナラス若シ相類似スルニ於テハ是亦公知公用ノモノト等シク其登録ヲ許サスト云

フナリ然レトモ自己ノ登録意匠ト類似スルトモ己ニ自己ノ專用權内ニ在ルモノナルヲ以テ公知公用ノ理由ヲ以テ之ヲ禁止スヘキニ非ス故ニ但書ヲ以テ此意ヲ明カニセリ

此ニ甚タ遺憾ヲ感スルハ實業家ノ爲メ極メテ必要ニシテ困難ナル問題タル類似ナル文字ノ領域ヲ抽象的ニ說示スルコトヲ得サルニ在リ意匠ニ關スル爭訟ノ大半ハ類似ナル文字ノ解釋ニ係ルト云フモ隱言ニ非サル程多累ノ文字ナリト雖モ一實物ニツキテ觀察スルニ非サレハ到底之ヲ判斷スルコトヲ得サルナリ

第二章 意匠專用權ノ發生

意匠專用權ハ意匠ノ登録ニ因リテ發生ス余ハ特許法講義ニ於テ特許處分前ニシテタル專用權ノ存在ヲ否認セリ同講義五頁意匠ニ於テモ登録前ニ在リテハ專用權ナルモノ無シ但シ意匠專用權ハ登録ニ因リテ發生スル點ニ於テ特許ト異ナルナリ特許即チ發明專用權ハ特許處分ニヨリテ設定セラル同講義一頁特許法

第十三條ニ曰ク「審査官ニ於テ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登録シ特許證ヲ下付ス」ト此ニ於テ所謂ル特許處分ハ原簿登録ヲ謂フカ將タ特許證ノ下付ヲ謂フカ將タ此外ニ在ルカノ疑問ヲ生スヘシ面シテ余ハ寧ロ特許證ノ下付ヲ以テ特許處分ノ形式ト認メント欲ス然ルニ此規定ハ又意匠法ニ準用セラレタルヲ以テ(意二)意匠專用權モ亦登録證ノ下付ニ因リテ成立スト云ハサルヘカラサルニ似タリ然レトモ登録證ト云フ以上ハ登録ノ證書ト云フ義ニ聞エテ之ヲ以テ意匠專用權ヲ賦與スル行政處分ト爲シ原簿ノ登録ハ内部ノ手續ニ過キス登録證ノ下付カ行政處分ナリト云フハ甚タ奇ナルカ如シ特ニ意匠法第一條ニハ「……意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得」ト規定セリ之ヲ特許法第一條ノ「……特許ヲ受ケルコトヲ得」ト對照スルトキハ意匠ノ登録ハ恰モ發明ニ於ケル特許處分ナル文字ニ準シテ見サルヘカラス然ラハ則チ意匠ニ在リテハ專用權ノ發生ハ登録ナル行政手續ニ因ルト云フヲ以テ至當トス然ラハ特許法ニ於テモ原簿登録ヲ以テ特許權ノ發生時期ト見ルヘキカ然ラス特許ニ於テハ原簿ノ登録ハ單一公證手續ニ過キス特許證ノ下

付ハ實ニ特許權ノ賦與ナリ何故ニ特許法ト意匠法トニ於テ原簿登録ノ性質ヲ異ニスルヤト云フニ是レ主トシテ立法沿革ニ原因スルモノニシテ別段ノ必要ニ基キタルモノニ非ス特許ハ特許法講義ニ於テ述ヘタルカ如ク最初ハ主權者ノ特定人ニ對スル特種ノ贈與ナリシカ故ニ現今ニ至ルマテ特許ハ特定ノ人ニ對スル主權者ノ意思表示ニ依リテ成立スルヲ通則トス之ニ反シテ意匠ニ在リテハ却テ著作ト同シク所謂ル届出主義或ハ之ヲ登録主義ト稱スヲ採リ審査手續ヲ履マシテ一定ノ届出アルトキハ直ニ之ヲ登録シ登録ニ因リテ專用權ヲ生スルヲ原則トスルモノ多數ナリ(獨英佛皆是ナリ)以及來ノ如ク意匠ヲ發明ト同視スル立法ニ在リテハ例外ナリ故ニ我立法ハ亦此多數例ニ從テ一方ニ於テハ特許ハ特許處分ニ因リ發生スル主義ヲ採リシモ意匠ニ在リテハ登録ニ因リテ專用權ヲ生スル主義ヲ採リタルモノト思ハルナリ然ルニ我意匠法多數數ハ立法例ニ反シテ意匠ニ於テモ特許ト同シク審査主義ヲ採用シ遂ニ特許法第三條ヲ準用シタルヲ以テ特許ト意匠トニ於テ權利ノ發生時期ヲ異ニススト云フハ甚タ怪シムヘキカ如シト雖モ特許法第十三條ハ單一査定アリタル場合ニ特

許局長ノ執ルヘキ手續ノ順序ヲ規定シタルニ止マリ専用權ノ發生時期ヲ一定シタルモノニ非ス専用權ノ發生ハ特許法第一條意匠法第一條ノ文意ニ付テ之ヲ尋テサルヘカラス乃チ兩法自ラ別趣アルヲ知ルヘキナリ

二 意匠登錄出願ノ權利ヲ有スル者ハ(一)案出者及其承繼人はレ特許法ト異ナル所ナシ(二)意匠案出者ノ委託者又ハ雇主是レ意匠法ニ特別ナルモノナリ第五條ニ曰ク(他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ニ係ル登錄出願ノ權利ハ其ノ委託者若ハ雇主ニ屬ス但シ別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニアラス)ト此規定ハ實際ノ必要ヨリ起リシモノナリ意匠ハ發明ト異ナリ一ノ技術ニシテ意匠案出ヲ職トスル意匠家ナル者アリ或ハ他人ノ委託ヲ受ケ又ハ他人ノ傭聘ニ應シテ意匠ヲ案出ヲ爲ス者ナリ而シテ其他人ノ爲メニ案出シタル意匠ハ其人ニ使用セシムルヘキ合意アルコトハ明カナリトスルモ其人ヲシテ之カ專用權ヲ得セシムル合意アリシキ否キ不明ナル場合稀ナリトモ然レトモ委託者又ハ費用ヲ供給スル雇主イ意思ヲ推測スルトキハ多クハ己レ之ヲ專用セシムルカ爲メニ費用ヲ惟マシ意匠ヲ案出セシムルナリ若シ唯之ヲ使用スルコトヲ

證書作成ノ勞務モ亦收入ノ基本タリ公證人ハ其作成ニ付キ嚴重ナル規定ヲ遵守セサル可カラス事件ノ内容カ不法ナル可カラサルハ勿論其形式ニ付テモ其結果カ公正效ナル重大ナル價值又齟齬ヲ式ケ同一ノ程度ニ於テ特ニ煩雜ナル條件ヲ充テササル可カラズ之レ法律カ公證人ニ收入ヲ受クルコトヲ許シタル所以ニ非ラズトモシヤ「アウベ」氏ハ之ヲ結果ノ重大ナルヨリ説キ「ブー」氏ハ證書ノ性質ヨリ論スルモ共ニ相容レサルモノニアラサルナリ

公證人制度ノ設定ハ公ノ秩序ヲ維持スルカ爲メニシテ其職務モ亦公益保持ニ外ナラス然レトモ人民ノ囑託ナクシテ證書又作成ス且ツ其職務ノ執行モ亦囑託人ノ特別利益ニ歸スルモノトス故ニ囑託シタル特定人カ手数料等ヲ支拂フモノト爲シタリ

公證人ニ其職務上ノ過失ニ付キ責任ヲ有ス一方ニ於テハ形式ノ違背其他ノ怠慢ニ基キ懲戒罰ヲ課セラル可キモノニシテ他ノ一方ニ於テハ其違背ヨリ囑託人其他ノモノニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ賠償不可キモノトス職務ノ執行ニ付キ此ノ如キ責任ヲ負擔スルコト亦收入ノ一基本ト爲スニ足レリ

此收入ハ手數料タルト旅費又ハ日當タルトヲ問ハス必ズ職務ノ執行ニ基キテ發生スルモノナルコト論ヲ俟タサルカ故ニ其請求權モ亦職務ヲ執行シタル公證人ニアル可キヤ疑ナシ然レトモ公證人カ已ムヲ得サル事故ニ因リ近隣公證人ニ代理ヲ囑託シ又ハ公證人ニ停職其他失格ノ原因アリタル爲メ兼任者ノ任命アリタルトキハ收入ハ何人ノ手ニ歸ス可キカ此場合ニ於テ法律ハ本任者ニ代ハリテ職務ヲ行ヒタル兼任者カ手數料ヲ受ク可キモノト定メタリ(公第六十八條其理由トスル所ハ死亡等ノ場合ニアリテハ收入ヲ受ク可キ本任者既ニ存在セザルカ故ニ姑ク措キ停職ノ如キ本任者及兼任者ノ並存スル場合ニ於テモ現ニ職務ヲ行フモノハ兼任者ニシテ本任者ハ全ク虛名ヲ推スルニ止マリ毫モ職務ノ執行ニ關係セス而シテ收入ハ一ニ職務執行ニ原因シテ名義如何ニ依ルモノニ非ナルヲ以テ兼任者カ之ヲ受ク可シト云フニアリ然レハ單ニ代理ヲ囑託スル場合ニ於テモ受託公證人カ收入ヲ得可キモノタルハ此理論ノ當然ノ結果ナリ

第二章 收入ノ算定

手數料等ノ算定ハ之ヲ公證人及囑託者間ノ任意契約ニ依ラシムルトキハ利潤ノ多少ニ因リ偏頗ノ待遇ヲ生シ其結果公證制度ノ生命タル嚴正保持ニ影響ヲ及ホスコトナキヲ保セス或ハ公證人ヲ騙ツヲ就争ノ渦中ニ投セシムルカ如キ危険亦少シトセス故ニ法律ハ此算定ハ法定ノ程限ニ從フ可キモノトシタリ公證人ノ收入ハ主トシテ手數料旅費及日當トス其程限ハ次ノ如シ

(一) 手數料

- (イ) 手數料ハ書類ノ作成ニ對スル報酬ナリ書類ノ作成ニ要スル紙價ハ別ニ請求スルコトヲ許シタルカ故ニ彼此混同スベカラズ
- (ロ) 手數料ハ書類ノ性質ニ依リ其額ヲ異ニス法律ハ原本正本並ニ謄本及草案ノ三ニ分チタリ然レトモ之ニ用キル野紙ハ一行二十箇二十行ヲ以テ一枚ト爲ス可キヲ命シ總テ一様ナル形式ニ依ラシメタリ而シテ全一枚ニ滿タサルモノアルトキハ十行以上ハ一枚トシ十行及十行以下ハ半枚トシテ算定ス可キモノト

爲シタリ七...
 (一) 公證人カ囑託人ノ請求ニ依リ證書ノ作成ニ先タテ其草案ヲ作リテ交付シタルトキハ一枚ニ付キ金拾貳錢五厘ノ割合ヲ以テ算定シタル手数料ヲ受ク但其草案ヲ交付シタル後之ニ基キ原本ヲ作成シタルトキハ唯々準備手續ニ過キタルヲ以テ別ニ草案作成ニ付テノ手数料ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス
 (二) 原本ヲ作成シタルトキハ各一枚ニ付キ金貳拾五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ算定ス

(三) 正本又ハ謄本ハ各一枚ニ付キ金拾錢ノ割合トス
 (四) 手数料ヲ支拂フ可キモノハ其作成付與ヲ請求シタルモノナル可シ法律ニ於テハ囑託人之ヲ支拂フ可キモノト定メタレトモ此ノ囑託人トハ原本ノ作成ヲ囑託シタルモノノミナラス況シ謄本等ノ作成付與ヲ依頼シタルモノヲモ包含ス何トナレハ謄本等ハ關係人モ其付與ヲ請求シ得ク裁判所ノ命令アレハ關係以外ノ者ニモ付與シ此ノ如キ場合ニ原本ノ囑託人ニ其費用ヲ請求スルノ不當ナルコト論ヲ俟タサレハナリ

(一) 手数料支拂ノ義務ハ完全ナル證書ノ作成アルコトヲ前提トス故ニ完成セザル證書ニ付テハ之ヲ支拂フコトヲ要セス又公證人カ收入ヲ増大ニスル爲メ徒ラニ證書ヲ増大ナラシムルコトハ之ヲ許ササルカ故ニ此ノ如キ場合ニアリテハ當事者ハ其無用ナル部分ニ付テハ費用支拂ノ責任ナシ公正效ヲ失ヒタル證書ニ付テハ其失効ノ原因タル所爲カ何レニアルカヲ區別ス可ク若シ公證人ノミニアルトキハ費用請求ノ權ヲ失ヒ反之囑託當事者ニ存スルトキハ公證人ハ依然請求權ヲ保留ス其失効カ一部分ニ止マルトキ亦同シ

(二) 旅費及日常

公證人ハ其役場ニ於テ職務ヲ執行ス可キコトヲ原則トス法律ハ已ムヲ得サル事件ニアリテハ役場以外ニ於ケル執行ヲ許スト雖モシカモ尙ホ受持區内ニ於テ之ヲ執行セサル可カラス此場合ニ於テ其職務執行地ト役場トノ距離カ一里ニ滿タサルトキハ法律ハ其場所ノ移轉ノ爲メ特ニ費用ヲ要セザルモノトシテ手数料等證書ノ作成ニ直接且必然ナル費用ノ外何等ノ報償ヲモ與アルコトナシ之ニ反シ距離一里以上ニ達シ且ツ途中滯留ヲ要スルトキハ囑託人ヲシテ其

旅行及滞留ノ爲メ公證人ニ生シタル費用ヲ賠償セシム旅費及日當是ナリ
 (イ)旅費日當ハ公證人カ其職務執行ニ必要ナル車馬及飲食並ニ宿泊等ノ費用ヲ
 總括ス其性質ハ實費ノ賠償ニアレトモ之ヲシテ一ニ事實上ノ消費額ニ依ラレ
 メンカ少キニ過クレハ公證人ヲ害シ過大ナレハ囑託人ニ利アラス爲メニ其計
 算等ヨリ紛争ヲ醸シ易シ故ニ法律ニ於テ相當ナル標準ヲ定メ以テ紛糾ノ虞ヲ
 杜絶シタリ

(ロ)旅費日當ハ此ノ如キ性質ニシテ且ツ囑託人ノ特別ナル利益ノ爲メニ發生ス
 ルモノアルヲ以テ囑託人ヨリ事實上其職務ヲ執行シタル公證人ニ對シ之ヲ支
 拂フモノトシ公證人カ本任者タルト兼任者タルト間ハナルナリ
 (ハ)旅費ハ公證人ノ經過シタル距離ニ依リテ算定ス旅行ノ費用ハ常ニ距離ト正
 比例ヲ爲スモノナレハナリ法律ハ一里毎ニ金貳拾錢トシ最近ノ通路ニ線以上
 アルトキハ最近ノモノニ依リ之ヲ算定可キモノトス
 (ニ)公證人ハ距離ノ二倍ニ法定ノ割合ニ因ル費用ヲ乘シタル旅費ヲ受ク何トナ
 レハ囑託人ハ公證人カ或地點ニ赴クコトノミヲ要求スルモノナリト雖モ其場

所ヨリ役場ニ復歸スルハ亦其囑託ヨリ當然生スル必要ナルカ故ニ往復ノ費用
 ヲ合併セテ支拂フ義務アレハナリ
 (ホ)日當ハ滞在費ノ辨償ニ充テラルモノナルカ故ニ公證人カ滞在シタル日數ニ依
 リ之ヲ算定シ一日金七拾錢ヲ以テ法定ノ標準トス
 (ヘ)滞留ハ公證人ノ任意ニ出タルコトヲ許サズ必ス職務執行又異變ノ爲メナラ
 サル可カラス若シ任意ニ依ルトセハ囑託人ノ負擔過當ナルコトアリ得ク且
 ツ法律カ算定額ヲ定メタル趣意ニ合セザレハナリ故ニ役場及執行地間ノ距離
 カ平時ニ於テモ一泊以上ヲ要スルトキ又ハ然ラサルモ不可抗力他ノ事變ノ
 爲メ滞留ヲ必要トシタルトキニ限り日當ヲ受ク可キモノトス
 (ト)滞在ハ役場住居以外ノ地ニ於テスルニ非サレハ日當ヲ受クル權利ナシ不可
 抗力ノ爲メ住居ニ留マラ發程スル能ハサルトキト雖モ囑託ノ爲メ特別ナル費
 用ノ生ス可キ道理ナケレハ滞在費ヲ請求スルコトヲ得ス唯タ職務執行ノ場所
 又ハ旅行ノ途中ニ於テ滞在スルトキニ限り之ヲ受クルモノトス
 (チ)日當ハ旅費ト同シク往復ニ要シタル日數ニ依リテ算定ス

(三) 印紙及罫紙ノ代價計算ニ要スル印紙ヲ貼用ス可ク又證書作成ニハ法定ノ證書ノ原本ニハ印紙稅法ノ要求スル印紙ヲ貼用ス可ク又證書作成ニハ法定ノ罫紙ヲ使用セザル可カラズ印紙ハ證書ノ作成者即チ公證人カ負擔ス可キモノナレトモ囑託人ノ囑託ニ基キテ生ズルモノニシテ罫紙ハ職務執行ニ缺ク可カラザルモノナレトモ是亦性質上囑託人ニ負擔セシムルヲ相當トスルカ故ニ總テ其代價ヲ囑託人ニ請求スルニト得セシメタリ

手数料旅費日當印紙及罫紙ノ代價等ハ法定ノ標準ニ基キテ之ヲ計算シ且ツ適當ナル時期ニ於テ之ヲ請求スルコトヲ要ス此場合ニ於テ囑託人ハ其計算ヲ明瞭ニスル爲メ必要ナリト思料スルトモ其計算書ノ交付ヲ請求シ得可シ此計算書ハ之ヲ受取證書ト混同ス可カラズ計算書ハ公證人ノ爲メタル算定ヲ明カニシ誤算ナカラシメシカ爲メ囑託人ノ參考ニ資スルモノニシテ債務ノ消滅ヲ證スル受取證書ト同シカラス而シテ囑託人カ計算書ニ依リ又ハ計算書ヲ請求セザルモ請求額ヲ支拂フトキハ其債務關係ハ終了シ更ニ囑託人ハ公證人ニ對シテ受取證書ノ交付ヲ請求スルニ得可シ(民第四百八十六條)

之ニ反シ囑託人カ理由ナク又ハ計算ヲ不當トシテ支拂ヲ爲サザルトキハ其債務關係ハ如何ナル可キ乎囑託人カ誤算ヲ主張シ公證人カ之ニ依リ計算ヲ更正シタル末支拂ヲ終ヘタルトキハ辨濟ニ依リ消滅ス可ク又此債權ハ公證人タル職務ニ關シ發生シタルモノナルカ故ニ其原因タル事件終了ノ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキ又事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間内ト雖モ時效ニ因リ消滅スルモノトス(民第七十二條)若シ當事者間ニ計算ニ付キ争ヲ生シタル結果其額ノ確定ヲ見ザルトキハ裁判所ノ判斷ニ依ラザル可カラズ

手数料等ノ請求及其支拂ニ關スル訴ノ管轄權ハ公證人ノ居住地ヲ管轄スル地方裁判所ニ專屬ス即チ其金額ノ百圓ヲ超過スルト否トヲ問ハズ又相手方ノ何レニ居住スルカヲ論セス總テ第一審トシテ管轄地方裁判所ニ訴ヲ提起シ其判斷ヲ受ク可キモノトス而シテ當該裁判所ノ爲シタル判決ニ對シ不服ナルモノハ通常ノ民事訴訟手續ニ依リ故障控訴及上告ヲ爲シ得可シ

第五編 公證人ノ責任

第一章 懲罰

第一節 懲戒罰

公證人ハ公吏トシテ其職務ヲ行フカ故ニ法律ニ違背シ規則ヲ遵守セサルトキハ懲罰處分ヲ受ク可ク又其職務ノ執行ハ人民ノ囑託ニ基クモノナルヲ以テ法規ニ違背シタル結果囑託人ニ損害ヲ加フルトキハ其賠償ノ責ニ任ス可キモノトス於是乎公證人ノ責任ハ懲罰ト賠償トノ二ニ分チテ之ヲ論セサル可カラズ

公證人カ一般法規ニ違背ス可カラサル義務ヲ有スルハ至ク普通人ト異ル所ナシ而シテ公證人ハ尙ホ其他ニ公吏ナル特別ノ身分ヲ有スルカ故ニ其職務ノ執行ニ關シ國家ノ發シタル特種ノ法律ヲ遵守スルコトヲ要ス此ノ如キハ國家カ公證人タル身分ニ伴ハシメタル特別ノ義務ニシテ其結果トシテ之ニ違犯シタルトキハ之ヲ懲戒スル爲メ制裁ヲ與フ其制裁ハ即チ懲戒罰ナリ

懲戒罰ハ其違犯ノ程度ニ依リテ輕重アリ先ツ之ヲ過料停職及免職ノ三ニ區別

第二節 過料

過料トハ公證人ノ比較的輕微ナル違犯ニ課スル財産上ノ制裁ニシテ五十錢以上三十圓以下ノ範圍トシ更ニ之ヲ三級ニ分ツ

(一) 五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處セラル可キ場合左ノ如シ

- (イ) 正當ノ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ミタルトキ(第八條)
- (ロ) 已ムヲ得サル事故アリテ職務ノ執行不能ナル場合ニ代理ヲ囑託セス又ハ其旨ノ届出ヲ爲サザリシトキ(第十一條)

- (ハ) 法定ノ用紙ヲ用ケスシテ職務ヲ執行シタルトキ(第十三條)
- (ニ) 證書ニ法定ノ要件證書作成ノ場所及年月日ヲ除クテ記載セザリシトキ(第三十條)

- (ホ) 證書ノ空白ニ黒線ヲ施サス又ハ法定ノ數字ヲ用キザリシトキ(第三十一條)
- (ヘ) 證書ニ讀聞ノ記入署名捺印又ハ肩書ヲ遺脱シタリシトキ(第三十五條)
- (ト) 證書ノ綴目合目ニ捺印ヲ爲サザリシトキ(第四十條)

- (チ) 委任狀等ヲ原本ニ連綴セズ又ハ附記署名捺印削印等ヲ爲サザリシトキ(第四十條)
- (リ) 證書ニ關係書類ヲ連綴シタル場合ニ於テ法定ノ手續ヲ缺キタルトキ(第四十一條)
- (ス) 原本ニ印紙ノ貼用ヲ爲サザリシトキ(第四十二條)
- (ル) 命令書ノ連綴又ハ之ニ依リ證書ヲ作成シタル旨ノ附記ヲ爲サザリシトキ(第四十四條)
- (エ) 原本ニ正本等ヲ付與シタル者ノ附記ヲ爲サス又ハ權利者ニ署名捺印セシマザリシトキ(第四十六條)
- (ワ) 原本及抄録原本ノ作成手續ヲ缺キタルトキ(第五十二條、第五十三條)
- (カ) 管轄裁判所ノ命令ニ依リ原本ヲ附與シタル場合ニ法定ノ手續ヲ缺キタルトキ(第五十四條)
- (コ) 見出帳ヲ裁判所ニ提出スル手續ヲ爲サスシテ之ニ記入シタルトキ(第五十五條)

- (タ) 法定期間内ニ提案目錄ヲ作成セザリシトキ(第五十九條)
- (レ) 書類引渡ニ付キ法定ノ手續ヲ缺キタルトキ(第六十一條)
- (ソ) 後任者又ハ兼任者カ正本原本ノ付與ニ付キ法定ノ手續ヲ缺キタルトキ(第六十三條)

(二) 二頁以上五頁以下ノ過料ニ處セラル可キ場合次ノ如シ

- (イ) 證書ノ本旨カ正本ノ付與ヲ許ササルニ之ヲ付與シタルトキ(第四十三條)
- (ロ) 正式原本ノ作成ニ付キ法定ノ手續ヲ缺キタルトキ(第四十四條、第四十五條)
- (ハ) 正本抄録正本正式原本抄録正式原本等ヲ重キテ付與シタルトキ(第四十八條)
- (ニ) 管轄裁判所ノ命令ナクシテ再度以上正本又ハ正式原本ヲ付與シタルトキ若シクハ其付與ニ付キ法定ノ手續ヲ缺キタルトキ(第四十九條)
- (三) 五頁以上三十頁以下ノ過料ニ處セラル可キ場合次ノ如シ
- (イ) 法令ニ違背シ又ハ他ノ官吏ノ專權ニ屬スル事件ニ付キ公正證書ヲ作成シタルトキ(第二條)

(ロ) 受持區外ニ於テ其職務ヲ行ヒタルトキ(第七條)

(ハ) 法定ノ印鑑ヲ差出ササル以前ニ職務ヲ行ヒタルトキ(第十條)

(ニ) 囑託人確認ニ關スル法定ノ手續ヲ履マシテ證書ヲ作成シタルトキ(第二十八條)

(ホ) 證書ニ其作成ノ場所及年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキ(第三十條)

(ヘ) 證書ノ文字ヲ追加改正消除シタルニ係ハラヌ法定ノ手續ヲ履マサリシト

キ(第三十三條)

(ト) 證書ニ當該公證人並ニ關係人ノ署名捺印ヲ缺キ又ハ署名不能ノモノアル

場合ニ於テ其補充ノ手續ヲ爲ササリシトキ(第三十四條)

(チ) 自己及親族ノ爲メニ證書ヲ作成シタルトキ(第三十六條)

(リ) 囑託人ノ爲メ訴訟代理人トナリ又ハナリタルコトアル事件ニ付キ證書ヲ

作成シタルトキ(第三十七條)

(ヌ) 證書中ニ自己親族立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ記入シタルト

キ(第三十八條)

ル證書ノ原本ヲ保存セス又ハ不保存若シクハ亡失ノ場合ニ於テ其補充ノ手
續ヲ爲ササリシトキ(第三十九條)

過料處分確定シタルトキハ身元保證金ヲ以テ之ニ充テ可ク保證金ノ欠缺ハ直
チニ之ヲ補充セシムルモノトス(第五十一頁參照)

(第二) 停職

停職處分ハ公證人ヲシテ一定ノ期間其職務ノ執行ヲ禁スルニアリ從テ公證人
ハ其期間證書ヲ作成シテ公正效ヲ生セシムルコトヲ得ス又證書ノ正本又ハ謄
本ヲ付與スルコト能ハサルナリ然レトモ全然其職務ヲ之ニ剝奪スル處分ニ非
ラサルヲ以テ原本其他ノ書類ノ保管ハ依然トシテ其責任ニ在ルモノニシテ唯
タ職務ノ執行ノミカ其手ヲ離レテ他ノ公證人兼任者ニ歸屬ス故ニ兼任者ハ正
本謄本ヲ付與スルニ當リ兼任者タル旨ヲ明記セザレハ却テ亦制裁ヲ免カレヌ
面シテ停職者ハ懲罰ノ結果私權上ノ能力ヲモ停止セザルモノニ非サルカ故
ニ假令停職期間ト雖モ其作成又ハ立會ヒタル證書ニシテ私署證書タルニ適サ
ハ私署證書タル效力ヲ發生ス可キヤ論ヲ俟タヌ百二十九頁以下參照

無期ノ停職ハ其結果免職ト異ナラサルヲ以テ停職處分ハ一月以上四月以下トシ其範圍内ニ於テ裁判所カ隨意ニ其期間ヲ定ムルモノト爲シタリ而シテ此ノ如キ職務ノ執行禁止ハ唯タ懲戒ス可キモノトシテ管轄裁判所ニ付セラルタルトキヨリ始マルモノニ非ラス停職ノ處分ヲ受ケ其處分カ抗告期間ヲ徒過シ若シタハ抗告ヲ理由ナシトシテ棄却スル判定アリテ確定シタルトキヨリ處分ノ效力ヲ生スルモノトス過料納付ノ義務ニ付テモ亦同シ

停職處分ニ處セラル可キ場合左ノ如シ

(イ) 管轄裁判所ノ認可ヲ受ケスレテ役場外ニ住居シ又ハ已ムヲ得サル事件ヲラサルニモ係ハラヌ役場外ニ於テ職務ヲ行ヒタルトキ(第十四條)

(ロ) 擅ニ原本其他ノ書類ノ本書ヲ役場外ニ持出シタルトキ(第十五條)

(ハ) 裁判所ノ命令ナシテ關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ付與シタルトキ(第十六條)

(ニ) 其取扱ニ係ハル公證事件ヲ擅ニ漏洩シタルトキ(第十七條)

(第三免職)

免職ノ處分ハ公證人ノ受タル最重ノ懲戒罰ニシテ嘗ニ其職務ノ執行ヲ禁止ス

ハノミナラヌ尙ホ其資格ヲ剝奪スルモノナリ從テ原本其他ノ書類ノ本書ハ公證人タルモノカ其資格ニ伴フ當然ノ結果トシテ之ヲ保管スルモノナルカ故ニ免職公證人ハ其保管ヲ失ヒ後任者若シクハ裁判所ノ吏員ニ之ヲ引渡ササル可カラズ而シテ此處分ハ司法大臣之ヲ決スルモノトス

免職處分ヲ爲ス場合次ノ如シ

(イ) 停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキ

停職ハ懲戒罰ノ一ニシテ公證人ノ行爲カ停職處分ニ該當ス可キヤ否キハ管轄裁判所ノ判定ヲ俟ツノミナラス場合ニ依リ抗告アリタルトキハ上級裁判所ノ判定アルニ非スンハ之ヲ決定スルニ由ナシ故ニ公證人カ停職處分ヲ受クルコト三回ニ及ヒタルトキニ始メテ司法大臣カ其職ヲ免スルモノト解スルヲ至當トス從テ停職ニ當ル三箇ノ所爲カ俱發スルモ停職處分ヲ受クルコトハ一回ニ過キサルヲ以テ此場合ニアリテハ免職處分ヲ受クルコトナシ

(ロ) 公權ヲ剝奪若シクハ停止セラル身代限家資分散ノ處分ヲ受ケ又ハ盜罪詐偽罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケ何レモ確定シタルトキ

此ノ如キ處分ヲ受ケタルモノハ公證人タルコトヲ得ス從テ就職中ニ前記ノ一以上ニ該ルモノハ其資格ヲ喪失セシムルヲ當然トス

(ハ) 身元保證金ヲ完納セザルトキ

身元保證金ハ公證人ノ職務執行ノ一要件タリ新タニ任命セララルトキハ當然之ヲ完納ス可キ義務ヲ生シ轉職ニ依リ不足ヲ生シ過料賠償其他ノ事故ニ依リ其全部又ハ一部ヲ減消シタルトキハ管轄地方裁判所長ハ身元保證金補充ノ命令ヲ發ス然ルニ辭令書ヲ受取リタル日ヨリ三十日若シタハ補充ノ命令ヲ受取リタル日ヨリ六十日ヲ過キテ尙ホ之ヲ納付セザルトキハ當該裁判所長ハ司法大臣ニ其旨ヲ具申シ司法大臣免職ノ處分ヲ爲スモノトス

二箇以上ノ違犯所爲カ俱ニ發シタルトキハ之ヲ併科ス可キ乎否ヤ余輩ハ原則トシテ之ヲ併科ス可キモノトス何トナレハ一箇ノ制裁ハ一箇ノ所爲ノ結果ニシテ二箇以上ノ所爲ニ對シ一ノ重キ制裁ヲ付ス可シトノ特別ナル明文ナキ以上ハ各箇ノ所爲ニ之ニ相當スル各懲罰ヲ伴隨キシムルヲ以テ當然ノ論理ト爲セハナリ然ルニ法律ニ於テハ此場合ニ於ケル適用ヲ明示セス特ニ此種ノ制裁

ハ懲戒罰ニシテ純然タル刑罰ニアラス又明文ニ於テモ之ニ刑法及刑事訴訟法ノ例ヲ用キサルコトヲ宣言公施第二十六條スルカ故ニ刑法ノ所謂一ノ重キニ從フノ規定ハ到底懲罰處分ニ撞ニ比付延引スルコトヲ得サレハナリ人或ハ制裁ノ性質上併科ヲ許ササルモノ例ヘハ免職ト停職トノ如キモノヲ以テ併科主義一除外例ト爲サントスルモノアリ然レトモ我法ニ於テハ免職處分ヲ以テ司法大臣ノ權内ニ屬セシメ懲戒裁判所ノ言渡シ得可キモノハ過科及停職ノ處分ニノミ止ムルカ故ニ免職ト停職トハ別箇ノ監督權カ發動シタル結果ニシテ其一カ先ニ發シタル場合ハ勿論各處分ニ相當スル所爲カ時ヲ同シクシテ發シタルトキト雖モ併科ス可キヤ否ヤノ問題ヲ生セス唯タ免職處分ヲ受クルト同時ニ之ニ停職處分ヲ受ケシムルハ事實上不可能ニ屬スルカ故ニ二處分ヲ共ニ執行スルコトヲ得サル場合ナキヲ保セスト雖モ然カモ併科セザルト併科スルモ其結果ヲ得サルトハ自カラ別箇ノ問題タルヲ注意セザル可カラス
懲戒ノ處分ニ付テハ時効ノ規定ナク刑法及刑事訴訟法ノ時効ニ關スル規定モ亦準用スルコトヲ得ス故ニ一度違反行爲アリタルモノハ時効ニ因リ其責任ヲ

免脱スルコトヲ得スシテ唯タ死亡及失職カ其責任解除ノ原因タリ得可キモノトス何トナレハ死亡ハ人格ノ喪失ニシテ人格者ニテラサレハ制裁ヲ與フルコトヲ得ス又懲戒罰ハ常該公證人ニ對シテノ課ス可クシテ其相續人ニ及ホシ得可キモノニ非タルヲ以テ死亡シタル公證人ニ對シテハ全然違反行為ノ責任ヲ問フコト能ハサレハナリ又停職處分ノ如キハ公證人カ職務ヲ執行シ得可キ状態ニアルコトヲ前提トスルカ故ニ既ニ職務離脱ノ原因アリタルトキハ此ノ如キ責任ヲ課スルコトヲ得サレハナリ

第二節 懲戒手續

懲戒罰ハ刑罰ニアラヌ國家カ公證人ニ對シテ其職務ニ關スル命令ヲ發シ更ニ其執行ヲ監視スルカ爲メニ監督機關ヲ設定シ違犯アル場合ニ於テ之ニ制裁ヲ課シ以テ其不法ヲ匡正シ且ツ適法ナル遵守ヲ爲サシムルヲ目的トスルカ故ニ懲戒罰ハ公證人タル特別ノ資格ヲ有シ其職務ヲ行フモノニ對シテノミ之ヲ課ス可クシテ一般人民ニ其效力ヲ及ホスコトヲ得ス又公證人ノ所爲ト雖モ公證人

規則ニ定メタル違犯ノ場合ニアラサレハ懲戒罰ヲ加フルコトヲ得ス其職務ニ關セサル違法行為アラハ普通ノ人民ト均シキ制裁ヲ甘受ス可キヤ勿論ナリトス此ノ如ク懲戒罰ハ公證人ノ職務上ノ違犯ニ對シ監督權ノ作用トシテ之ヲ課スルモノナルヲ以テ其管轄裁判所モ一般ノ規定ニ依ラスシテ當該公證人ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ審判宣告ス可キモノト爲シタリ又懲戒ノ裁量權ハ管轄裁判所ハ其全權ヲ以テ懲戒ニ付セラレタル公證人ノ所爲カ果シテ法定ノ違犯ナリヤ否ヤヲ判断ス可シ然レトモ其懲戒トシテ適用ス可キモノハ過料及停職ノ二ニ止マリ免職ハ司法大臣ノ專行ス可キ處分タリ而シテ懲戒罰モ判事ノ懲戒處分ニ於ケル如ク廣カラヌ即チ其問題ハ懲罰ノ何レノ種類ヲ適用ス可キカニアラスシテ專ラ所犯ノ輕重ニ從ヒ法定ノ懲罰ヲ如何ナル程限ニ於テ之ヲ課ス可キカニアリトス

懲戒罰ハ前述ノ如ク刑罰ニアラサルヲ以テ其處分モ民事裁判所之ヲ管轄ス可キモノトス即チ三人ノ判事ヲ以テ組織シタル地方裁判所ハ民事部カ審判ス可キモノニシテ裁判所ニ依リ二箇以上ノ民事部ヲ設クルモノアルカ故ニカカル

公證人規則

公證人ノ責任 懲罰 懲戒手續

懲戒手續

懲戒手續

懲戒手續

懲戒手續

懲戒手續

懲戒手續

懲戒手續

場合ニ於テ何レノ部ニ繫屬ス可キカニ付テハ別ニ明文ナシト雖モ地方裁判所長カ裁判長タル民事部ヲ以テ之ニ充ツルヲ穩當トス而シテ裁判所ノ休暇ハ毎年七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハリ其間ニ於テハ原則トシテ民事訴訟ヲ中止スルカ故ニ懲戒處分モ休暇部若シクハ休暇部長カ直チニ著手ス可キ緊急ノ事件ト認ムルカ否ヤニ依リ休暇中取扱ハレ或ハ然ラサルニ至ル可シ此點ニ付キ佛國判例ハ積極說ヲ執レリ千八百六十七年八月六日佛大審院(大審院)懲戒審問手續ニ付テハ法律ハ唯タ刑法及刑事訴訟法ノ例ヲ用キサルコトヲ宣言スルニ止マリ判事又ハ辯護士ノ懲戒ニ於ケルカ如ク如何ナル手續ニ依ル可キカヲ明言セス元ヨリ懲戒罰ハ刑罰ニ非サルカ故ニ其手續ニ刑事法ヲ準用ス可カラサルハ法律ノ規定ナキモ當然ノ事ニ屬ス然レトモ賠償ノ請求アル場合ノ外ハ亦純然タル民事訴訟ニモ非サルカ故ニ之ニ關スル規定モ亦全然適用シ得可キニアラス依テ此處分ヲ民事裁判所ノ管轄ニ屬セシメタル點又ハ此處分カ監督權ノ作用ニ基ク點等ヨリシテ其手續ヲ定メサル可カラズ

懲戒裁判所ハ職權ニ因リ懲戒ニ付セラレタル公證人ニ對シ事實ノ審問ヲ開始

セサル可カラズ懲戒ニ付スルハ全ク監督權ノ行動ニ屬シ第三者殊ニ被害者ノ容態ヲモ許サスト雖モ監督官ヲシテ違反ノ所爲アルヲ知ラシムル原因ニ付テハ別ニ制限ヲ設ケサルヲ以テ或ハ違反行爲ノ相手方又ハ檢事ノ申立ニ因ルコトアル可ク或ハ亦監督官カ直接ニ之ヲ知得スル場合ナキニアラス而シテ懲戒裁判所ハ當該公證人ヲ召喚シテ審問ス可ク其證憑ノ集聚及取捨ハ一ニ職權ニ因リテ之ヲ爲シ得可ク公證人ハ是等ニ對シテ辯明シ得可ク殊ニ必要ナル場合ニアリテハ裁判所ハ公證人ニ對シ證書ノ原本謄本見出帳及其他ノ書類一切ノ提出ヲ命シ得可キモノニシテ公證人ハ之ニ從フ義務ヲ有ス(公第十五條)

懲戒裁判所ハ諸般ノ證憑ヲ取捨シテ事實ヲ判定スルノ專權ヲ有ス然レトモ其判定ノ範圍ハ事實ニ依リテ認定セラレタル公證人ノ所爲カ公證人規則ニ違犯シ懲戒罰ニ該當スルモノナリヤ否ヤニアリ從テ審問ノ結果刑法其他ノ法規ニ該當スルモノアルヲ發見シタルトキハ之ニ刑罰ヲ適用スルハ刑事裁判所ノ權限ニ屬スルヲ以テ進シテ之ヲ審判スルコトヲ得ス而シテ判定ヲ爲シタルトキハ其結果如何ヲ問ハス之ヲ言渡ス可キモノトス蓋シ此判定ニ對スル抗告期間

ハ處分ノ翌日ヨリ起算ス可キモノトシ抗告ニ對スル判定書ハ言渡ス可キモノトシタル規定ヨリ此ノ如ク決定スルヲ穩當トス

懲戒處分ハ抗告期間ノ徒過又ハ抗告ヲ不當トスル判定ニ依リテ確定シ是等ノ確定原因ナキ限りハ執行セシテ從テ停職處分ヲ受ケタル公證人ト雖モ其處分カ確定セタル間ハ其職務ヲ執行シ得可ク後日確定スルモ爲メニ其以前ニ爲シタル公證行爲ニ影響ヲ及ボササルモノトス

懲戒裁判所カ公證人ニ對シテ爲シタル懲戒處分ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得可シ抗告ハ裁判ニ依リ直接ニ權利ヲ害セラレタリト思料スルモノカ其裁判ノ變更ヲ求ムル救済方法ナリ抗告手續ヲ規定シタル司法省令ハ弘ク懲戒處分ニ對シ不服アル者ハ抗告スルコトヲ許シタリト雖モ之ヲ以テ其處分ニ何等ノ關係ヲ有セサルモノヲ包含ムト解スルハアマリニ廣キニ失スルモノト言フ可シ元ヨリ當該公證人ハ違法行爲ナシト確信シタルニ却テ懲戒罰ニ處セラレ又ハ法律ノ規定ニ依レハ過料ニ該當ス可キ所爲ニ對シ停職ヲ命シタルカ如キ裁判所カ事實ノ認定若シクハ法律ノ適用ヲ誤リタリト思料スルトキハ其處分

ニ依リ直接ノ影響ヲ生スルカ故ニ抗告ヲ申立ツルコトヲ得可キハ論ヲ俟タズル所ナリ然レトモ更ニ進シテ檢事懲戒手續ノ開始セラレタル事件ノ囑託人又ハ關係人等モ抗告ヲ爲シ得可シトスルハ妥當ニアラス何トナレハ懲戒處分ハ全ク監督權ノ作用ニ外ナラスシテ第三者ノ容喙ヲ許ス可キニ非ス檢事囑託人及關係人等ハ或ハ懲罰權ノ端緒ヲ爲スコトアリト雖モ然カモ懲罰上當該公證人ノ相手方ニアラス從テ懲罰處分ニ參與シ且フ其處分ニ依リ直接ノ影響ヲ受タルモノニアラサレハナリ然レハ此ノ如キモノハ懲罰處分ニ對シ不服ノ存ス可キニアラス又抗告スルコトヲ許ササルナリ若シ夫レ懲罰ト全然關係ヲ有セタル世人一般ニ至リテハ抗告ノ權ナキヤ論ナシ而シテ抗告手續懲罰處分ニ對シテノミ抗告ヲ爲ヌヲ得ト定メ構ナシトノ判定ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得テラシメタルハ後ノ場合ニ於テハ當該公證人ト雖モ尙ホ不服又ハ權利上ノ利害關係ヲ有セサルカ爲メニシテ尙ホ之ニ由リ當該公證人以外ノモノハ懲罰處分ニ對シテモ抗告スルヲ得サル趣旨ヲ推知スルニ足ル可シ

抗告ハ懲罰處分ノ翌日ヨリ起算シ七日内ニ懲戒裁判所ニ之ヲ申立ツルコトヲ

要シ該裁判所ニ抗告狀ヲ提出シテ之ヲ爲スヲ通例トスレトモ該裁判所カ其受理シタル抗告狀ヲ法定期間内ニ管轄控訴院ニ送致セサルトキ又ハ急遽ヲ要スル場合ニ於テハ懲戒裁判所ヲ經由セスシテ直チニ管轄控訴院ニ抗告狀ヲ差出スコトヲ得

懲戒裁判所カ抗告狀ヲ受取リタルトキハ其抗告ノ當否ヲ判斷シ之ヲ正當ナリト認ムルトキハ速カニ抗告ノ趣旨ニ從ヒ不服ノ點ヲ更正ス可ク此場合ニ於テハ抗告ハ其目的ヲ達シタルヲ以テ終了ス之ニ反シ之ヲ正當ナラスト認ムルトキハ抗告狀受理ノ翌日ヨリ三日以内ニ其意見ヲ付シ關係書類ヲ添附シテ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス又管轄控訴院カ直チニ抗告狀ヲ受理シタルトキハ抗告ヲ受ケタル裁判所ヲシテ意見書ヲ差出サシメ及關係書類ヲ求ムルコトヲ得可ク直接タルト間接タルトヲ問ハス抗告ヲ受ケタルトキハ書面ニ依リテ判定ヲ爲シ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他ノ關係人ニ書面ヲ以テ答辯ヲ爲サシメ書面審理ノ方法ヲ以テ判定ス其結果トシテ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ處分ヲ爲シタル原裁判所ヲシテ懲罰處分ヲ更正セシム可ク不當

ナリトスルトキハ抗告ヲ棄却ス何レノ場合タルヲ問ハス管轄控訴院ハ其判定書ヲ原裁判所ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ

第二章 賠償

公証人ノ職務ハ權義ノ證明ニ緊切ナル關係ヲ有スルカ故ニ其負擔スル責任モ重且大ナリ其公証人タル資格ヲ離脱シテ爲シタル不法行為若クハ債務ノ不履行等ニ付テハ一般人民ト同一ナル責任ヲ負擔ス可キヤ固トヨリ明カナリ而シテ公証人ノ責任カ重且大ナリトハ常入ト同一ナル責任ヲ負フノ外向ホ其職務ノ執行ニ付テ違犯行為アレハ國家トノ關係ニ於テ懲戒罰ヲ甘受ス可ク又囑託人等ニ對スル關係ニ於テハ其損害ヲ賠償セザル可カラサルコトヲ云フナリ

公証人規則 公証人ノ責任 賠償

不履行又ハ不法行為等ヨリ發生シ公證人ト雖モ是等ノ場合ニ於テハ其行為ヨリ生ズル責任ヲ負擔ス可キハ全ク常人ト異ル所ナシト雖モ是等ノ原因ヨリ生ズル争訟及裁判所ノ管轄等ハ公證人規則ノ關涉スル所モアラズ然レトモ狹義ノ賠償ハ一般ノ損害中特ニ公證人タル資格ニ伴フモノノミヲ云フ換言スレハ公證人カ其職務ノ執行若シクハ不執行ヨリ囑託人等ニ損害ヲ蒙ラシメタルコトヲ前提トス此ノ如ク論スレハ賠償ハ公證人カ其職務ノ執行ニ關シ國家ノ發シタル特種ノ法律公證人規則ニ違犯シタル行為ニ基因スルノ點ニ於テ全ク懲戒罰ト異ル所ナシト雖モ懲戒罰ハ違犯行為ニ對スル直接ノ制裁トシテ國家ノ加フルモノナルニ狹義ノ賠償ハ違犯行為カ囑託人ニ對シテ蒙ラシメタル損害ニ付キ囑託人ノ請求スルモノナルノ差異アリトス

公證人カ其職務ニ關スル國家ノ命令ヲ遵守セザルトキハ其違犯ニ基ク職務ノ執行若クハ不執行ハ一面ニ於テ懲戒處分ヲ値ヒシ他ノ一面ニ於テハ其執行不執行カ他人ノ權利ヲ侵害シタルトキハ其損害ヲ賠償スル責任ヲ生ス公第七十九條此損害賠償ハ全ク公證人及被害者間ノ關係ニ止マルヲ以テ一般ノ規定ニ

依リ民事裁判所其争訟ヲ管轄ス可キヤ論ヲ俟タスト雖モ懲戒處分モ亦特別ノ規定ニ依リ民事裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルカ故ニ同一公證人ノ同一ナル違反行為ニ付キ懲戒處分並ニ損害賠償ノ請求カ並發シタルトキハ同一裁判所ノ併審スルコトヲ妨クス元ヨリ其審理手續ハ一ハ懲戒ニ屬シ他ノ一ハ純然タル民事訴訟ナルヲ以テ彼此混同スルコトヲ得サレトモ凡ソ公證人ノ違反行為ニシテ懲戒罰ヲ課セラレザルナリ損害ノ賠償ハ必ズ違反行為アルコトヲ前提トシ其關係ハ恰モ附帶私訴ノ公訴ニ於ケルカ如キヲ以テ併合シテ管轄審理スルヲ便利トス

管轄裁判所ハ受理シタル訴訟ニ付キ損害ノ原因及其數額ニ付キ審査及判定ノ全權ヲ有ス即チ公證人ニ職務上ノ責任(Responsabilité professionnelle)アリヤ否ヤヲ先決問題トシ延ヒテ其責任及之ニ比例スル賠償ノ程度ヲ査定シ尙ホ囑託人等ノ責任ニ歸ス可キ行為等ヲ參酌シ以テ本案ヲ決セザル可カラズ

損害賠償ノ請求權ハ必ズ違犯行為アルコトヲ前提トシテ發生ス然レトモ違犯行為ハ常ニ損害ヲ伴フモノニアラス何トナレハ公證人規則中ノ命令規定ハ公

益上ノ理由ニ出ツルモノナルヲ以テ違犯行為ハ必然公益ヲ害シ從テ常ニ懲戒罰ノ制裁アリト雖モ公益ヲ害シタリトテ常ニ同時ニ私益ヲ害スルモノニアラサレハナリ例之公證人カ證書ノ綴目ニ契印ヲ施サナルトキハ過料ノ處分ヲ受タ可キモノナレトモ爲メニ證書ノ效力ニ影響ヲ及ササルカ故ニ囑託人ハ損害ノ賠償ヲ請求ス可キ理由ナキカ如シ

違犯行為中賠償ノ請求權ヲ發生ス可キ主要ナルモノヲ舉クレハ其概要左ノ如シ

(一) 證書ヲ無効ナラシムル行為不行爲

公證人ノ行為不行爲ニシテ證書ヲ無効ナラシムル結果ヲ生スレハ囑託人ニ損害ヲ蒙ラシムルヤ勿論ナリ而シテ證書ノ無効ハ其内容ノ不適法ト其形式ノ不備トヨリ生スルカ故ニ公證人ノ行為モ亦二様ニ分タル其内容ヨリスルモノハ法令ニ背キ又ハ他ノ官吏ノ專權ニ屬スル事件ニ付キ作成シタル證書等ノ如キ法令ノ違背誤解及不知等ヨリスルモノト證人ノ無能力又ハ役場外ノ作成等ノ如キ事實ノ不當ヨリ生スルモノトノ兩様アリ又其形式ヨリ生スルモノハ原本

ノ作成手續ヲ欠缺シタルモノ等是ナリ

(二) 證書ノ效力ニ影響ナキ行為不行爲

證書ヲ無効ナラシメスト雖モ尙ホ損害ヲ伴フ違反行為アリ例之正當ナル理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒絕シタルカ如キ或ハ原本ニ一致セサル謄本ヲ付與シ又ハ謄本ノ付與ヲ理由ナクシテ拒絕シタルカ如キ皆此部類ニ屬ス

公證人規則 終

公證人規則

公證人規則

公證人規則目次

第一編 公證人制度……………一

第一章 公證人制度ノ起源……………一

第二章 公證人ノ性質……………五

第三章 公證人ノ員數……………八

第四章 公證人ノ住居……………二

第五章 公證人ノ受持區……………二〇

第六章 公證人ノ職務執行……………二四

第七章 公證人ノ除斥……………二八

第八章 抗告……………三二

第二編 公證人タル資格ノ得喪……………三五

第一章 公證人タル資格……………三五

第二章 職務ノ開始……………四五

公證人規則目次

第三章 職務ノ終了..... 五〇四

第四章 職務ノ受繼..... 五七

第三編 公證人ノ職務..... 七四

第一章 權限..... 七四

第二章 證書..... 八五

第一節 證書ノ形式..... 八五

第二節 證書ノ作成..... 九一

第一項 原本..... 九一

第二項 原本以外ノ書類..... 一一〇

第三節 證書ノ保存及其付與..... 一一五

第四節 證書ノ失効..... 一二六

第三章 特種ノ公證行為..... 一三一

第一節 遺言..... 一三一

第二節 拒絶證書..... 一四四

第三節 認證..... 一四七

第四節 確定日附ノ付與..... 一四八

第四章 義務..... 一五三

第四編 公證人ノ收入..... 一五九

第一章 收入ノ基本..... 一五九

第二章 收入ノ算定..... 一六三

第五編 公證人ノ責任..... 一七〇

第一章 懲罰..... 一七〇

第一節 懲戒罰..... 一七〇

第二節 懲戒手續..... 一八〇

第二章 賠償..... 一八七

公證人規則目次終

公認人...
 第一...
 第二...
 第三...
 第四...
 第五...
 第六...
 第七...
 第八...
 第九...
 第十...

雜 報

○擔任講師ノ變更 不動産登記法講義擔任講師鈴木學士公務多忙ノ爲メ辭任セラレタルニ因リ京都帝國大學法科大學教授法學博士岡松參太郎氏ニ同講義ノ擔任ヲ囑託シ本號ヨリ同博士ノ講義ヲ掲載セリ

○府縣制第六條第九項ニ所謂請負及ヒ役員ノ意義 或法人ノ社員ニ非スシテ單ニ一部ノ事務ヲ擔任スル者モ亦役員ノ中ニ包含スルモノトスヘキカ及請負トハ營利ノ目的ヲ有スルト否トニ關セサルカニ付キ行政裁判所ハ判決シテ曰ク府縣制第六條第九項ニハ單ニ府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員トノミアリテ其請負及役員ノ意義ニ付何等規定シタル法意ノ見ルヘキモノアラザレハ尙モ府縣廳ニ對シ請負ヲ爲シ居ルノ事實アリ而シテ其法人ノ役員タル以上ハ之ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラス然レハ縱ヒ中國新聞社カ營利ノ爲メ請負ヲ爲シタルニアラスシテ實際是レカ爲メ損失ヲ蒙リ居ルトスルモ又山本三朗カ一部ノ事務ヲ擔任スルニ止マリ該社ノ持主又ハ組合員ニアラストスルモ

之ヲ理由トシ本項ノ適用ヲ免カサルヲ得ズト(行政裁判所明治三十六年第四百
 月十四日第一號公告)ノ實情法ニ依リ(行政裁判所明治三十七年七月
 ○當選ノ效力ニ關スル代人ニ依ル異議申立ニ關シ選舉ノ效力ニ關シ異議ノ申立
 ヲ爲スニ當リ代人ヲ以テセルモノハ無効ナリキ否キニ付キ行政裁判所ハ判決
 シテ曰ク當選效力ニ關シ異議申立ヲ爲スカ如キハ其性質必スシモ本人自ラ爲
 スヲ要スルモノニアラザレハ代理ヲ禁スルニハ特ニ其規定ナカルヘカラス然
 ルニ訴訟法中之ヲ禁シタル明文ナキニ依リ訴訟人島田長三郎カ代人ヲ以テ爲
 シタルハ違法ニアラスト(行政裁判所明治三十六年第四百九十九號會議員當選
 公告) 附第六號判決ニ照シテ(行政裁判所明治三十七年十月二十四日第一號
 公告) 附第六號判決ニ照シテ(行政裁判所明治三十七年十月二十四日第一號

○用水事業ノ共同處理ヲ目的トセル町村組合ト灌溉反別ノ増加 用水組合
 (町村組合)ハ其灌溉區域ヲ基礎トシテ成立シ爾後同組合ノ決議ヲ以テ其區域ヲ
 増加スルコトハ許スヘカラサルモノナルキ否キニ付キ行政裁判所ノ判決ニ曰
 ク灌溉區域ノ擴張ハ組合成立ノ基礎ヲ動搖ス可キ事項ナルカ故ニ組合會ノ決
 議ヲ以テ灌溉反別ヲ増加シタルハ違法ナリト云フモ本件ノ組合ハ町村制第百

十六條ニ依レル町村組合ニシテ町村ヲ基礎トシテ設立シタルモノナレハ其規
 約ノ規定スル所ニ依リ組合會ノ決議ヲ以テ灌溉反別ヲ増加シタルハ相當ニシ
 テ違法ニ非ズト(行政裁判所明治三十六年第四百九十九號會議員當選
 公告) 附第六號判決ニ照シテ(行政裁判所明治三十七年十月二十四日第一號
 公告) 附第六號判決ニ照シテ(行政裁判所明治三十七年十月二十四日第一號

○戶籍法第二百十五條ノ法意 戶籍法第二百十五條ノ規定ハ學者ノ所謂無
 形ノ偽造ノミヲ罰シタル規定ニシテ他人ノ名義ヲ僞リテ申出ヲ爲シタル如キ
 場合ヲ含マストセル大審院ノ判決理由ニ曰ク「屆書又ハ申請書カ他人ノ名義ヲ
 濫用シテ作成セラレタリトセンカ其實實ヲ認知シタル登記吏ハ其登錄ヲ拒ム
 ノ權ヲ有スルハ勿論其作成者ハ文書偽造行使罪ノ正犯トシテ刑罰ノ制裁ヲ受
 ケサルヘカラサルヤ明カナリ故ニ他人ノ名義ヲ濫用シテ屆書又ハ申請書ヲ偽
 造行使シタル場合ニ對スル豫防ノ方法及ヒ其制裁ハ戶籍法第二百十五條ノ規
 定ヲ俟タスシテ既ニ存在セルヲ以テ此點ニ關シテハ毫モ顧慮スル必要ナシ
 之ニ反シテ屆出人又ハ申請者カ單ニ虛構ノ事實ヲ記載シテ身分ニ關スル届
 出又ハ申請ヲ爲シタルニ過キサルトキハ即チ其届出又ハ申請ニ關シテ學者ノ

所謂無形ノ偽造アリタル場合ニ付テハ之ニ對シテ刑罰ノ制裁ヲ付スルコトヲ得ス何トナレハ我現行法ニ依レハ各人ハ自己固有ノ名義ヲ以テ文書ヲ作成スルノ全權ヲ有スルヲ以テ其文書ノ内容カ眞實ニ反スル場合ト雖モ尙ホ且ツ文書ヲ偽造シタルモノトシテ刑事上ノ責任ヲ負フコトナク他人ノ名義ヲ濫用シテ文書ヲ作成シタル場合ニ限リ文書偽造罪ヲ犯シタルモノトシテ刑罰ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヲ以テナリ故ニ身分登記ノ眞正ヲ保ツノ必要上身分ニ關スル届書又ハ申請書中ニ於テ當事者ノ爲シタル無形ノ偽造ニ對シテ刑法以外ニ於テ特ニ制裁ヲ付スルノ必要アリ戸籍法第二百五條ノ規定ハ即チ此目的ヲ以テ制定セラレタルモノニシテ同條ニ所謂詐僞ノ届出若クハ申請トハ届出又ハ申請ノ内容ニ虚偽アル場合ノミヲ指シ他人ノ名義ヲ冒シテ届出又ハ申請書ヲ偽造シタル場合ハ其内ニ包含セラルモノトスト(大審院明治三十七年(乙)第一七號及尋常取財事件明治三十七年七月七日第二刑事廳宣十)

明治三十七年七月七日第二刑事廳宣十

刑罰 刑罰 刑罰



(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月四回 七日 八日 十八日 二十八日 發行)

明治三十七年十二月四日印刷
明治三十七年十二月七日發行
(定價金貳拾五錢)

編輯者
秋原敬之
東京市牛込區牛込北町十番地

印刷者
小宮山信好
東京市牛込區牛込大塚町三番地

印刷所
金子活版所
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

發行所
司法省
東京市麴町區富十見町六丁目十六番地
法政大學
(電話番町百七十四番)